

昭和五十一年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議録第二号

館山市議會

目次

日時	場所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	行政一般通告質問	石井輝久君の質問	石井武敏君の質問	五十嵐昇君の質問	渡辺軍治郎君の質問	栗原一雄君の質問	辻田実君の質問	散会	本日の会議に付した事件
一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	一五	二三	三二	四〇	四八	五九	五九
									当局の応答	当局の応答	当局の応答	当局の応答	当局の応答	当局の応答		

一、昭和五十二年六月十五日（水曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員三十名

一番 吉田勇治郎	二番 伊藤幸太郎
三番 矢野寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川平治	六番 鈴木正義
七番 本間昭二	八番 松下正己
九番 鈴木 稔	一〇番 流山源次郎
一番 近藤好雄	一二番 栗原一雄
一三番 林 豊	一四番 石井輝久
一五番 辻田 実	一六番 安西益男
一七番 石井武敏	一八番 渡辺軍治郎
一九番 渡辺昭夫	二〇番 和田 一郎
二一番 田中 禄郎	二二番 五十嵐 昇
二三番 菊井敏博	二四番 西村 真次
二五番 伊賀多朗	二六番 藤田 益治
二七番 速山ヨネ子	二八番 石井 正
二九番 望月 照正	三〇番 山口 康康

一、出席説明員 なし

二、出席事務局職員

第一号に同じ

三、議事日程（第二号）

第一号に同じ

昭和五十二年六月十五日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時三分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の六月十一日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

○一四番（石井輝久君） 私は、今次定例会に提案されました議案の審議に先立ち、当面する館山市政の中で最も重要と思われる六点について質問しようとする者であります。

質問の第一点は、昭和五十一年度館山市一般会計予算五十七億七千三百三十七万六千円がいまから十六日前の五月三十一日の出納閉鎖に当たって五千九百八十九万六千円の黒字を生んだのであります。その内容を分析しつつ、合わせまして三点にわたって具体的に伺ひ申し上げます。

ただいま申し上げました五十一年度最終予算五十七億七千余万円という額は、今次定例会に提出されております。二中、三中の専決処分二億一千七百九十万円の起債増がまだ承認されておりませんので、厳密には五十五億五千八百余万円といふべきでありました。ところが、この場合に限って言えば、半澤市政に御協力いたすという意味合いをもちまして、承認されていない専決処分の額を入れているということを申し上げます。

館山市の財政は、昭和四十九年度の出納を閉鎖するに当たって五十年度予算から三億五百八十二万二千元に上る繰り上げ充用をせざるを得ないという非常事態を半澤市長独自の方針によって招き、続く五十年度の最終補正に対しましては、歳入の見込みに欠け二億一千七百九十万円を減額せざるを得なかったことは記憶に新しいところであります。

ところで、五十一年度は当年度給与改訂分と前年度改訂分の二年度分約一億三千万円を計上したため、事業費を圧迫した事実はありません。出納を閉鎖するに、とにかく市長、助役を初め財政当局、また職員の協力によって黒字を生み得たことに對しまして、その御努力を多とする者であります。

以上、総括的に申し述べまして、黒字の分析と質問に入ります。さて、五千九百九十万円の内容を見ますと、端的に申し上げます。

すならば、全く思わぬもうけものをした。あるいは他力本願の僥幸に過ぎなかったという要素が大半であって、しいて市独自の要素を求めるならば、千八百万円に上る職員給与の昇給延伸分の一事のみといっても過言ではないと分析する者であります。

何となれば、歳入面について言えば、ついこの間の三月議会で二千四百万円を減額補正した競輪事業収入が予測に反し、僥幸にも千八百万円の増、富士ディーゼルが土地を売却したための市税増収八百万もまた僥幸、地方譲与税と自動車取得税の約六百万円もまた僥幸に等しい。歳出面についても二千七百万円の執行残であります、大半が入札残金であって、あなたまかせの僥幸に等しいと言えましょう。

ここにおいて、県下で館山市だけが昨年の三月十五日の議会で議決して実施いたしました一等級で九カ月、二等級以下で六カ月の給与の昇給延伸によって、もしこの延伸なかりせば当然予算計上さるべき千八百万円があったればこそ六千万に近い金が浮いたことになると言えましょう。

そこで、市長はこの際、職員が市財政のために物価高に耐えながら延伸に合意して、犠牲をしのんで協力したことに対し、温情をもって何らかの形で還元措置を講ずる御意思はないか。伺います。

また、職員に協力をあおぎ、さらに私ども議会に対して給与条例の改定に当たって説明されたのは、財政事情が苦しいからという理由であったはずであります、市長は、本間前市長が去る四十九年十月に行った給与の一号アップが財政上の諸悪の根源である旨を明言されたと聞きます。財政が苦しいからという事情と、

諸悪の根源であるからという事情とは全く違います。この点、真意を伺います。

さらに、相次ぐ本間前市長否定の路線を走り続ける半澤市政の根底をなす考え方であるとは見るならば、私が過去に御指摘申し上げてきたとおりでありまして、何ら不思議はなく、一号アップした本間市政が諸悪の根源と断定されてもしごく当然でありましょ、うが、この点の、すなわち本間前市政とのからみについて御所見を伺いたいのであります。

次の質問に移ります。県は新総合五カ年計画を樹立し、その中で十二の大きなプロジェクトを企てており、その第三のプロジェクトとして救急中央病院の建設と救急医療体制の確立をうたっております。当館山市におきましても、まさに救急体制の確立は焦眉の急でありましょ、うし、いかにせん体制は欠如していると言わざるを得ません。

去る四月三十日前農水課長岩崎一郎氏は車にはねられて大腿骨を骨折し、市内の病院にかつぎこまれたが拒否され、やむなく君津中央病院に転送中、救急車が交通事故にあつて横転したのであります。この事実が救急医療のほかに交通事故という二重の問題を含んでおりますが、この事実を承知しておられるかどうかをまず伺います。承知しておられたら、その入院に至るまでの経過について御説明を承りたい。

次に、昨年の七月五日救急者が市内の病院から千葉市の川鉄病院に救急患者を転送しておりますが、この患者は市内に住む元女子教員某、市内の病院に七月三日に救急車で被害者、加害者ともかつぎ込まれたが、土曜日の午後のためこれといった処置もせず、

副木、点滴の応急処置だけにとどまり、翌四日の日曜も同様、薬を煮やした患者の一族は、当時の代議士金瀬俊雄氏に相談し、千葉の川鉄病院に転送してもらったという事実があります。

この間、この支払いに幾らを要したか、ご存じでしょうか。なんとほぼ五十万円だったのであります。この事実はご存じないでありませんが、搬送の事実関係は承知しておられるはずであります。一応御説明を承ります。

こういった例は氷山の一角と言えるのではありますまいか。確かに医師会も積極的に協力はされており、敬意をはらうにやぶさかではありません。夜間待機についても積極姿勢だし、夏季対策も検討中であることを私は承知しておりますが、第一次の救急医療体制が欠如している事実は否定できません。どうして確立していくか。その見通しを質問します。

また、市行政の重点施策として取り上げる御意思ありや否やを伺います。

質問の第三点に入ります。いま館山市は夏季の観光シーズンをひかえており、当局も繁忙をきわめておられるわけですが、海岸の駐車場についてどのような対策をお考えか。伺います。

民間の任意団体が平久里川の河口付近の波返し堤防の内側の空地を駐車場適地として管理者である県の出先機関館山土木事務所と折衝し、ために市当局も現地を視察したと聞きますが、もし事実であるとするならば、このことに関してだけ申せば市の行政不在、無能のそしりを免れないと断ぜざるを得ません。なぜ市がもっと早く独自に県と折衝しなかったのか。簡明なる御答弁をわずらわしい。

また、城山の観光について伺います。まず、建設省の都市公園法と城山の関係はどうなっているか。御説明いただきたい。

次に、国、県との関連を含めて、市の城山開発の計画についてコンクリートされたものでなくても結構ですが、考え方を伺いたいのであります。

さらに、民間の熱心な方々の計画で、城山の旧跡に至る道路工事が行われ、そのための寄付行為があったと聞きますが、その事実関係の説明を求めます。合わせて、いかなる理由をもって観光行政の一環としてこれを計画されなかったのか。本来ならば、行政の執行側の計画であるべきでありましょう。簡明なるお答えをいただきたいのであります。

さらにまた、どうも近時の傾向として観光行政不在、民間主導換言して俗に申せば、民間に引きずり回わされている感を深くするのであります。どうお考えでありましょうか。伺います。

第四の質問は、し尿汲み取り料金の徴収方法を従量制に改善できないかということであります。びろろにわたる発言で恐縮ですが、便槽の小さい家庭は月二回、どうかすると三回、便槽の大きい家庭は二月に一回ないしは三月に一回の汲み取り回数が実情であるようであります。回数に加えて人頭割で計算される現行の汲み取り料金徴収方法は公平を欠くと思われれますが、この点公平という点についてまず市の考え方を伺いたいののであります。

次に、従量制の方が公平だとお考えになっておられないか。お聞きします。そして、従量制に改善する御意思のあるやなしやについてお聞きします。

質問の第五点に移ります。

市内真倉字日坂並びに小池作にまたがる土地に予定している衛生センターについてであります。諸説紛々、市長はご存じないかもしれませんし、その諸税の一々をここに被露することは避けるといたしまして、三月議会の答弁のように、まだ今後も地元に対して誠意をもって納得してくれるまで折衝を続けるおつもりかどうか。伺います。

同時に誠意をもってしても、四月二十八日に地元地区民の総意をもって、以後絶対に折衝に応じないとの回答があったように聞きますが、その事実関係について伺い、合わせて私は一早く断念して名譽ある転進を図るべきだと思っておりますが、御見解を承りたいのであります。

もし、移転の場合、現在の処理場の放流水と接続できる位置、しかもポンプアップでなくて、自然流下ができる場所を選定することが望ましいと思われませんが、この点に対する市長の御所見を伺いたいのであります。

さらに、観光の上から質問します。隣接の白浜、千倉方面の観光業者は、一大観光拠点鏡ヶ浦に処理場の水を放流するとすれば大歓迎だと言っているという小ばなしもどきの話を耳にします。

これこそまさに風が吹けばおけ屋がもうかるということにほかなりません。

いまの技術をもってすれば、無色、無臭、無害であることを必ずしも否定するものではありません。しかし、人間にはイメージという科学以外の作用が働くこともいえます。観光客は必ず逃げる。逃げればそのお客は白浜に回わる。白浜がやがていっぱいになる。そうなれば千倉に来る。これが小ばなしの内容であります。

す。もっていかんとなすや。市長の御見解をお聞かせ願いたいのであります。

質問の最後は、市立三中についてであります。四十九年九月議会に市は財産取得の議案を提出されました。すなわち県立館山高等学校の用地を三億五千九百四十三万円の債務負担行為によって県から随意契約で購入せんとする議案でした。しかも、その用地は学校施設用という目的だったのであります。

当時の本間市長は、九月十七日の本会議で辻田議員の質問に答えて「いずれにしても、館高の跡に三中をやるということに決定したわけでもございません。」と明言し、さらに質疑を通じて、将来市民の意向を汲んで学校用地等といった広い解釈に立つ考え方を確認しようではないかといった合意があったわけでありました。

それが、去る三月議会の五十一年度補正予算で突如として同じ館高跡地を三中の用地取得を目的とする教育債二億三千四百二十万円が登場し、また今次議会の専決処分承認案件として同じく三中用地取得費二億一千五百二十万円が提出されているわけでありました。債務負担を起債に振りかえる御努力と、その成功には敬意をはらう者であります。

さて、そこで質問します。まず、本間前市政にあっては三中ではないのだ。学校教育用等の土地だといったものが、なぜ三中用地と銘打ったのかについて伺います。学校施設用と三中用地とは起債の利率が違い、三中の用地の方が低利率であるため、こうなったのではありまじょうが、議会で決定したものが簡単に小手先芸のように変えられてはまことに困るのであります。

次に、三億五千九百四十三万円で買ったはずなのに、なぜ九十

万円もはね上った四億四千九百四十万円でなければならぬのか簡単に答え願います。

さらに、三中と銘打った以上、いままでの学校施設とは全く違って、あの場所に三中ができることになるかと理解すべきが当然であります。私も寡聞にして三中なるものを公式に聞いたことがないし、市民もまた計画を承知しておらないのでありますからこの際、三中の用地として取得した以上、構想を明らかにすべきが至当でありましょう。その構想を明らかにしていただきたいのであります。もし、その構想が明らかにできないとするならば、あえて幻の三中と言わざるを得ないのであります。

以上をもって質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○(市長半澤良一君) 石井議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、五十一年度歳入歳出予算の問題でございますけれども、昭和五十一年度の一般会計予算は補正四号までで五十七億七千三百三十七万六千円でございます。出納閉鎖時の歳入はこの予算より三千二百八十八万九千多、五十八億六百二十六万五千円で、歳出はこの予算より二千七百万七千円少ない五十七億四千六百三十六万九千円となったわけでございます。この歳入と歳出の差が五千九百八十九万六千円余り生じまして、これが黒字ということでございます。

この五千九百八十九万六千円を生んだ要因は御指摘の点もございまして、最も大きな要因は、従前から債務負担行為等で議決をいただき執行いたしました各事業につきまして、鋭意起債

の許可を受けべく努力を傾注いたしました。大蔵省、郵政省初め県当局と折衝を重ねようやくこれが認められたためだと考えております。すなわち、起債許可により五十一年度で負担しなければならぬ債務負担行為事業等にかかわる一般財源が他の事業費に振り向けることができたことが最も大きな原因だと考えております。

次に、職員組合からは還元措置としてプラスアルファの要求がございましたけれども、諸般の情勢からこれが支給は考えられません。しかしまた、職員の福利厚生について改善の余地もございますので、目下検討中でございます。

職員給与の一号アップは財政硬直化の一因にもなったという考え方を職員に伝えたのでございまして、当該年度のみを考えた場合はともかくとして、職員の在職中すべてに及ぶものでございまして、財政事情の苦しい館山市にとって、よりよい方法だとは考えておりません。

本間市政との関連についての御質問でございますが、何らかの機会に議会でも御答弁申し上げましたように、行政というのは断絶があつては困る。そういう意味で、私はやはり前任者の方針を受け継いでいくべきだと考えているわけでございますが、しかしまた、人間がかわるわけでございまして、そこにおのずからいろいろなニュアンスが出てくるのもやむを得ないことだ。また、それでなければ行政担当者がかわる意味もなからうかと考えております。

御質問の第二点、救急医療体制の欠如と確立の見通しについてという御質問でございますが、救急医療体制につきましては、安

房都市広域市町村圏事務組合の中で、都市地域医療協議会におきまして昨年五月専門の分科会的な救急医療懇談会が設置されまして、休日、夜間等救急診療体制の整備を図るための調査、研究及び計画策定等の検討をお願いいたしておりましたところ、五十二年十二月の同懇談会より地区医療協議会へ救急医療対策の答申をいただいたのでございます。

答申の中で、特に早急に善処しなければならぬ問題として、夜間の救急診療施設設置の問題がございました。

広域圏組合議会は、議員全員協議会におきましてこの問題を討議いたし、安房郡市夜間救急対策実施要綱が承認されました。当面の暫定措置として、入院を必要とされる患者を収容できる機能を有する病院が夜間待機施設として医師会側の了承を得ましたので、本年一月一日をもちまして、安房郡市広域市町村圏事務組合と安房医師会との間に事業委託契約が締結されました。本年一月四日より実施され、医療需要にこたえているわけでございます。

しかしながら、これは暫定措置でございますので、昨年末安房郡市救急医療委員会が設置されました。救急医療体制の整備計画等救急問題全般にわたり調査、研究していただくようお願いしているところでございます。

なお、岩崎一郎氏の事故のてんまつについてということでございますが、この事故は四月三十日十五時十三分頃という屋デパート前を歩行中乗用車と接触し、大腿骨骨折により直ちに伊賀病院に収容され、同十六時四十分伊賀病院より収容者の手術のため君津中央病院に転送するので救急車出動の要請を受け、看護婦同乗の上、輸送中、君津市内八重原交差点において赤信号のため徐行

進行中、左側路上より新日鉄職員の乗用車が救急車左側ボデーに衝突し、そのはずみで中央分離帯に接触、前輪タイヤがパンク、停車、直ちに君津広域消防による救急車により岩崎氏を君津中央病院に輸送したわけでございます。しかし、同乗者の看護婦さんが二週間程度の外傷を受け入院治療を要しましたが、これに要する費用は五月二十三日加害者と示談が成立し、加害者負担となっております。

次に、昨年七月三日発生しました市内に居住する女子教員の交通事故でございますが、これは神作眼科医院前路上で乗用車同士正面衝突事故で、救急車により十五時二十九分頃小林病院に搬送をいたしました。外傷の程度は女子職員は大腿骨骨折、相手方は打撲程度であったそうですが、翌々日七月五日小林病院より収容者の精密検査及び手術が必要であるので、救急車の出動要請がございまして、十三時四十五分収容者を千葉川鉄病院に移送いたしました。

このように、けがの程度によりまして移送しなければならぬ場合もございしますが、救急医療委員会における御意見等を尊重いたしまして、この問題と取り組んでまいりたいと考えております。

第三点は、観光行政の民間主導についてでございますが、海幸苑前の国有地の駐車場の件でございますけれども、当箇所は釣り客及び夏の海水浴客の一部の方が駐車をいたしているわけでございます。

御指摘のように、民間の団体から市で借入し、駐車場として一般に利用させてほしいとの要望があったのでございますが、この場所が国有地でございまして、現況の中で駐車場的な役割を果たし

ており、市が借入して整備しなければ車でのお客様に支障が生ずるという現状ではございません。車でのお客様はほとんど三軒町海岸から北条海岸に集中し、海岸道路と海岸茶店との間に駐車をいたしているわけでございます。

夏の車での来客はほとんど市外の県民の方であり、遠く京浜方面からの来客もでございます。現在の管理下の中で駐車場として開放することができず、市で借入し管理しなければ駐車できないという理由はないと考えております。しかし、将来駐車場として市が借り受け整備することが必要となり、より効果があると判断される時点で所要の手続を取り借入をいたしたいと考えております。現在、この場所はコンクリートの投棄物等で美観上からも適当ではありませんので、処置方を県に対して要請をいたしております。市が現場視察に同道いたしましたのは、県からの要請もありますが、ただいま申し上げました廃棄物の状況等を含めてうかがったわけであります。

二点目の城山の関係ですが、城山は都市公園法の適用を受ける公園でございます。

城山開発の一環として里見関係を含めまして現在考えておりますのは、城山の南に一部国有地がございますが、この国有地を公園区域に含め、公園事業として里見コースの整備をいたしてまいりたいと考えております。

次に民間による里見コースの問題ですが、今年の二月四日県立博物館におきまして南総里見八犬伝顕彰会が開催され、席上、京浜急行主催による南房総歴史とロマンの旅が計画され、四月三日、二十九日、五月五日の三回、各回二百名程度の送客をし

たいので、受け入れ施設の整備をお願いしたいという要請がなされたのでございます。

市といたしましては、五十一年度事業として計画されておりました案内表示板を設置し、受け入れ体制を進めてまいったわけでありますが、城山の南東山ろくにあります八義臣の墓への通路が非常に不備のため、これを急拠整備すべく準備を進めたのであります。また、特定の方からの奉仕の申し出があり、実施されたのであります。

もちろん、市の里見コースに対する考え方は先ほど申し上げましたとおりでございますし、市として観光施設の整備は市の行政の中で計画し、実施していくことには変わりはありません。城山公園の整備はもちろん必要であることは申し上げるまでもありませんが、城山への自動車での来客に対します駐車場等の確保がまず先決であると考えますので、現在これらの実現を図るべく準備を進めております。

それから、民間に振り回わされているというような御表現でございましたけれども、そうは考えてはおりません。民間主導とは民間に振り回されることでは決してないわけでございまして、民間の主體的なエネルギーを活用し、これを観光発展の基礎としたい。また、それが基礎でなければならぬというふうに考えているわけでございます。

第四点、し尿汲み取り料金の徴収方法でございますが、一般家庭のし尿汲み取り料金の徴収方法について公平を欠くと思われるので、従量制に改善すべきではないかという御意見でございますが、これはごもっともな御意見だと考えます。

この点につきまして、料金改定時に担当課に検討させたこともございましたが、収集車についております計量器が十八リットル単位を目盛りで読み取りにくい点、また液体が動いていて停止するまでの時間がかかる等の問題点が多く、かえって不公平につながるようなことがあると思われましますので、計量器が改善された時点で御意見を尊重し、検討いたしたいと考えます。

次に、質問の第五点、衛生センター建設予定地と放流水についてでございますが、日坂、小池作を候補地として選定いたしました衛生センターのその後の地元との話し合い、見通しについてでございますが、昨年清掃事業運営審議会より答申を受けて以来、利害関係者と十分な話し合いを行い、同意を得ることの付帯条件を尊重し、地元真倉区との評議委員会及び役員宅の個別訪問を重ねて努力をいたしました。同候補地に対する反対は非常に根強いものがございます。四月二十八日の役員会との話し合いも、他に変更されたい意見が強かったことは事実でございます。

一方、これ以上引き延ばすことは、同土地所有者に対し迷惑を重ねることになり、また梅雨期続いて台風シーズンに入り被害が出た場合等合わせ考えた場合、当該地が最適地と思われながらもこれ以上時間をかけることが非常に困難な状況になってまいりました。しかし、現在の処理施設は二十倍の希釈水が必要であり、これが確保できる個所は、当初から申し上げておりますように、汐入川上流東橋付近が最適でありますので、清掃事業運営審議会等の意見を十分に取り入れ、ここを中心に再努力をいたしたいと考えております。

また、移送のやむなき場合、現処理場の放流水と接続できる位

置、自然流下が可能な場所及び観光の上からの御指摘と、イメージの点につきましては、貴重な御意見として今後の参考にいたしたいと考えております。

質問の第六点、市立三中の建設の構想についてという問題でございますが、中学校統合問題につきましては、現在教育委員会において館山高校跡に統合中学校を建設することを予定して検討を進めておりますが、館山高校跡地は昭和四十九年度に学校施設用として県から譲り受け、代金の支払いを市開発公社に依頼してまいったところでございます。

しかし、昨年度末義務教育債の許可を受けるに当たって、具体的な学校名を上げる必要が生じたので、教育委員会の統合中学校構想の第三中学校の呼称を使用し、起債の許可を受けた次第のものでございますので、基本的には当初の考え方と変わりはございません。

なお、買収費と開発公社への支払い額との差は、利子及び市開発公社の委託手数料等と土地開発基金への償還金一千万円でございます。

以上、御答弁を終わります。

答弁漏れがございましたので追加をいたさせていただきます。

女子教員の事故に対する入院費が非常に高額だったということを知っているかという御質問でございますが、存じ上げておりません。

〇一四番（石井輝久君） 再質問いたします。

まず第一点でございますが、従来開発公社の債務負担行為で仕事を進められてきた。それを五十一年度いろいろ御努力をされて

起債に振りかえられた。そのために財政の窮迫を苦勞してぐり抜けることができた。こういう御説明でございますが、確かにそのとおりであろうと存じまして、その点に對しまして、御努力を多とするものであるということを申し添えたいと存じます。

ただ、五千九百九十万の黒字についてだけ金額を分析しますと競輪、市税、譲与税、自動車取得税、執行費等々、それから当然延伸がなければ千八百万前後の予算計上をしなければならなかった。これが計上されなかったために約六千万の黒字を生んだという。これは私の方の分析でございますので、御答弁でそういう面もあるということでございますので、その点はあえて御質問申し上げません。

質問の細かい一点でございますが、市の職員に對して、とにかく耐乏生活をしてきたのであるから、何とか還元措置を温情をもって講ずる御意思はないかという質問に對して、支給は考えられないという御答弁をいただいて、ただし、福利厚生面でなお考慮の余地がある。その面で考えるという御答弁でございました。

でき得べくんば福利厚生面で考える余地があるならば、それを還元の方に振り向けていただきたいという感を抱くわけでございますが、これは要望としてこの点は質問を打ち切ります。

それから、これは非常に言葉に出してはなかなか表現がむずかしいと思いますが、とにかく昭和四十九年の十月に行われた一号アップこれが財政の諸悪の根源であるという御発言をなさったという半澤市長さんの御真意は、財政上の分析をしていくとそういうふうにしかな考えられないというような意味に受け取れるわけでございます。これは考え方の問題でございますから、そのよう

に市長が考えておられるなら、これは考え方ですから、これ以上は御質問はいたしません。

それから、本間前市政とのからみの点でございます。これもいろいろニュアンスがございますので、これは解釈のしょうでございますが、私はまず昭和四十九年の末に行った繰り上げ充用三億余りに端を発する。それからまた、あえて触れますならば、福祉関係の問題、汲み取り料金の問題等々具体的に上げますと、本間市政時代の具体的な問題が次から次に後退、あるいは否定されていると、その否定路線の上にさらに本間市政否定として一号アップが諸悪の根源であるという御発言があったのではなからうかとこのように考えておるわけでございます。これも申し添えるだけで再質問はいたしません。質問を打ち切ります。

救急医療でございますが、救急医療につきましては、ただいま御説明を承って一月四日から入院可能な病院と事業の委託契約をして実施しているという御答弁をいただいたわけでございます。一層これを推進していただきたいと存じます。

ただ、一次救急医療について確かに欠如している。その一例として私は二つの具体的な事例を取り出してみたわけでございます。必要ならば、もっともっとこれに類する例を具体的に持ち出すことはできますが、これは一々は省略するいたしましたので、とにかく第一次の欠如これを何とか早く確立をしていきたいと私は念願しておるものでございます。

合わせまして、ただいまの御質問の最後の方に市政の重点施策として取り上げる意思ありやなしや。こういうことでございまして、この点は全体に含めてのお答えのように御理解なすってお

ったようでございますが、私が申し上げましたのは、救急医療体制の確立を、県ではとにかく新総合五ヶ年計画の十二の大きなプロジェクト、しかも緊急の課題として取り上げておるわけでございますので、館山市政におきまして、近隣町村と話し合って最重点施策としてお取り上げになる。このようにお考え取り上げる御意思ありや否や。この点は再質問いたします。

次に、観光の問題でございますが、これもいろいろございますが、最後の方で民間に引きずり回されている傾向は、それは考えていないということでございます。民間の主体的なエネルギーを観光の発展のために活用したい。この市長の考え方は最も当を得ているお考えだろうと存じまして敬意を表します。

ただ、のちにまた別個の通告質問があって、これらに触れていかれるようでございますので、あえて私は詳細には触れませんが、けれども、行政のサイドの中ではなくて、行政のサイドの外から観光行政を見ますと、振り回わされている感なきにあらざうり感を深くするわけであります。しかし、そうは考えておられないのであるという市長のお考え、それはそれで結構でございますしより。

そうしますと、具体的に夏季の駐車場はこれは視察をした。ところが視察した目的はコンクリートとか、いろいろ残滓があるので、それを除去する目的でごむんになったという御答弁でございます。それはそれで結構ですが、あの場所を駐車場にしないとする、かなり多くの数の車が来ることは事実でございます。一体どこに導いてどう駐車させるおつもりか。これは具体的に課長さんで結構でございます。お答えをいただきたいと存じます。

城山の観光開発につきましては、御答弁でおおよそわかりました。これも民間の篤志家仕者が出た場合には、それに乗ることもまことに結構でございます。それが必要であるならば、そのエネルギーを活用するというお考えまことに結構でございますが、一たん御熱意でやります。それから次に本格的な計画ができます。本格的な計画ができた場合には、それは無用のものになってしまふ。全くだぶ田に金を捨てたような死んだ事業になってしまふということをおそれるのあまりの私の質問でございます。そういうむだなことがないように行政の指導を確立していただきたい。総合的に計画をし、その計画の中で強力な行政指導を要望する者でございます。したがって、これは要望にとどめて再質問はいたしません。

し尿汲み取りでございますが、料金の徴収これは従量制の方が確かに公平であることはだれが考えても事実でございますが、なせメーターが動いてしまつて読み取りがむずかしいというんですから、これは取りようがないし、また一々便槽にもぐり込んで直径を計って、深さを計って一軒一軒やれば一番従量制が適用されることになるでしょうが、いまの機構の中ではこれも不可能に近いことでございますので、これは言いまして実現、実施不可能のことでございますから、これは将来の問題として計量器を早急に改善される方法をお考えをいただきたい。このように要望いたしまして質問を打ち切ります。

衛生センターでございますが、これもまことにデリケートな問題なんで深くは御質問申し上げませんが、しかしながら、とにかく一つの区切りが去る四月二十八日にあつたように私は理解する

んです。とにかくもうこれ以上折衝に応じない。他に変更してほ
らいたい。地元の切実な要望が四月二十八日にあった。これが一
つのタイムリミットでありまして、四月二十九日以後は全く別の
観点に事実としては進行しているものと私は理解するわけござ
います。

したがって、字日坂、小池作のあの予定していた土地は四月二
十八日をもって終えんをとると。二十八日以降は名替ある転進を
模索することになっていると。このように理解しておる者ござ
います。

あとは、私が先ほど申し上げた数点につきましては、貴重な意
見として参考に供したいということでございますので、一つ、前向
きに御検討を要望するわけでございます。

とにかくバンク寸前、せんだって特別の御調査をなすつた結果、
まだ若干の耐久力があるような御判断があったようでございます
が、それはそれとして、もう四十五キロリットルでございましょ
うか、投入しているのは、はるかにオーバーしている事実がござ
います。多少耐久力が仮りにあったとしてもバンク寸前である
という事実は、これはいなめません。早急に土地を検討し、そうし
てよりよいものを、また市民の合意を得られるような方向で御検
討されんことを切に要望する者でございます。この点は質問を打
ち切ります。

三中でございますが、これはただいまの御説明でよくわかるわ
けでございます。わかるわけでございますが、とにかく四十九年
の議会で、あの館高の跡には三中はつくらないんだ。そうして会
議録等を拝見いたしますと、本間前市長は三中をつくるとすれば

真倉の方がいいだろうということが残っております。その位置が
どうであるということを申し上げる者ではございませんが、あの
土地に三中をつくるんではないということ。これはもつと広く学
校施設用と限らず、等という字をつけようじゃないか。学校施設
用等ということがつけばもつと広く解釈する。市民の要望にこた
えるという意味が含まれておる。これは教育長の質疑の間に、教
育長もそのように解釈しているという御発言が文字として残って
おるわけです。

今回、とにかく三中用地として限定したことは事実です。これ
は事務的ないろいろな事情があったことは、ただいまお答えをい
ただいておるわけでありますが、そこらの点、それでよろしいの
か。ことに私が申し上げたいのは、議会で三中用地じゅうありませ
んよ。学校施設用等という字はつけないけれども、解釈として
は学校施設用等でありまふと。それが議会の質疑を通じての合
意であったはずでございます。その合意が簡単に三中という、三
中用地と銘打って簡単に変わってしまう。これはただ、その御説
明で簡単にそうでございますかというふうには受け取れないわけ
でございます。

そこで、これは質問したんですが、御答弁になかったんですが、
一番最後に、もし三中の構想が明らかにできないらうば、幻の三
中と言わざるを得ないといって私は質問を結んでおります。三中
の構想はこうするという御説明がただいま欠けておったわけでご
ざいます。したがって、この点につきましては、構想がないなら
ない。あるならあるとはつきり言っていたかかないと、全く幻の
三中になってしまう。一体あそこに三中をつくる御意思があるの

かどうか。御意思があるとするならば、内容はどうかというふうにお聞きしたいところでございますが、学校施設用等と答えた四十九年当時の議会答弁、それから今日それが全く違って三中用地となったこと、これは議会ではっきりと、これはお調べいただければわかりますが、合意したことでございますから、教育長さんも学校施設用、等という字がないけれども、等がついたものと解釈します。そのとおりですとお答えになつてゐるわけですから、それが三中用地とすると、もう三中しか使えないことになりますよ。ですから、その間の対議会の御答弁をどのようにされるのかお答えをいただきたいわけでございます。合わせまして、三中の構想を明らかにしていただきたい。このように考えます。

○市長（半澤良一君） 救急医療を市政の重点施策として取り上げるかどうかという御質問でございますが、これはそのようにいたしますつもりであります。

三中の件でございますが、構想等につきましては教育長の方から御説明されることにいたしました、今回第三中学校という呼称を使ったのは、先ほども申し上げましたように、あくまでも便宜的な考え方でございまして、基本的には最初から変わつてはおりないわけでございます。

○商工観光課長（中村正雄君） 先ほどの海岸の駐車場の件でございますけれども、できる限り北条海岸もしくは三軒町の海岸に駐車してもらふよう指導してまいりたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 三中の構想について、教育委員会としては現在の館山高校跡地に統合中学、名前をつければ第三中学を建設しようという構想を持っております。ただ、それを議会、その

他に提案できないのは現在館山高校使用中でありまして、あれがいつ空くかということがまだ画然としておりません。私どものつかんである情勢としては、本年と来年で館山高校の建築が高井の方にできるだろうと、それができれば五十四年ということをもまず大体目途としておりますが、その点がまだはっきりしないということが一つでございます。

もう一つは、統合というのは机上で簡単にきめるわけにまいりませんので、各地区の意向を十分汲み上げた上で統合の構想を打ち出して皆さんの御賛同を得ていきたい。こういうことでまだ正式ではありませんけれども、教育委員会としてはそういう方向で検討しております、これについてはせんだっての三月議会で林議員さんの質問にお答えしたとおり、現在の第二中学に館山地区の子供、西岬地区の子供、豊房地区の子供を入れる。第三中学現在の館山高校跡地には北条地区の子供、館野地区、九重地区、この数は年によって多少変動がありますがけれども、大体九百名前後、学級数にして二十学級から二十四学級の間を行き来しているように私どもの調査ではなっております、学校規模としては適正であるというように考えて、そういう構想を持っていろいろ委員会としては検討を進めてゐるわけでございます。

○一四番（石井輝久君） 救急医療でございますが、これはことの重要性を御認識されて、市の方でも重点施策としてお取り上げする御意思があるというお答えでございますので、この点はそのように早急に重点施策を推進されるように要望いたしまして打ち切ります。

夏季の海岸の駐車場の件でございますが、ただいまの課長の御

答弁で了承いたします。

それから、三中でございますが、これはただいまの御答弁で大体おぼろげながら構想としてはわかりましたが、幸いにして幻の三中ではないというだけではわかりました。これは計画でございいますから、確立された計画ではございませんですから、それではよろしいと思いますが、市長さんは先ほど便宜的な三中という呼称であるというお答え、そのとおりでございましょうが、どうですか、教育長さんの御答弁の便宜的な呼称ではなくて、あそこ北条地区、館野地区、九重地区約九百名、若干の移動がある。学級数二十ないし二十四という構想であの土地、あの跡に設けたい構想を持つてるということでございます。しかしながら、市長さんはそうじゃないというニュアンス、つまりあれは三中という名称だけ、便宜的な呼称である。教育長さんの方は、いやあそこに北条、館野、九重地区の約九百名の生徒を収容したい。市長さんの方は、いやあれは便宜的な呼称だ。あくまでも便宜的な、事務的なあれで三中としたのだ。そうじゃないんだ。学校施設用等というように解釈できる御答弁。ここらへんの食い違いが私は感じられるわけでございます。ここらの統一した御見解を伺いたいでございます。

ことは非常に、きのうも二中のPTAの役員会があったようでございますが、とにかく非常に関心を持つてるところでございます。し、館高の跡地というのは館山市で現在ある大きな土地としては唯一最大のものであらうと思われるわけでございます。であるだけに、駐車場がないとかいろいろ問題がございましょう。駐車場と学校施設用等とは結びつくかどうかは別といたしまして、三

中であると。その内容は北条、館野、九重地区九百名、学級数二十ないし二十四という構想をお持ちである。一方におきましては、いや三中ではないんだ。あくまでも学校施設用等である。こういうことになりますと、これは非常に大きな違いがあるので、市民の方は解釈も混乱してくると思うんです。ここらの統一した御見解を承りたい。

それと、当時の四十九年九月十七日の議会でございますが、本間前市長は、先ほど通告の質問で申し上げたとおり、あの土地に三中をやることと決定したわけではございませんと明言されておる。

それからまた、当該場における質疑、これは質疑の間を通じて教育長さん「学校施設用というのとは等という意味を含むんだ」という。ただ、用をつけなくて学校施設、土地、建物としてということは意味が違う解釈を私どもとっておるわけです。」こういうふうにお答えになつてゐるわけです。三中じゃないんです。学校施設土地、建物として等という意味を含むんだ。こうお答えになつておる。それからさらに質問がございまして、館高跡地利用、都市計画が決定していく中において、市民の意向というものによつて変わることもあり得るというように解釈してよろしいのか。安田教育長「御質問のように私もは解釈して、こういう申請になつております。」このようにお答えになつております。ここらの御見解について承りたいと存じます。

○教育長（安田豊作君） いま再質問いたしたとおりの経過でございます。学校施設用土地建物——学校施設等という意味でございます。

もっと詳しく申し上げますと、学校施設は三中の施設でござい

ます。等と考えるのは、社会教育施設等を併設できないかどうか現在検討中でございます。そういう意味で学校施設用地、学校施設等の用地として使わしていただきたい。こういうことで教育委員会としては考えております。

○一四番（石井輝久君） 再度簡単に。

ただいまの御答弁で、先ほど、構想は一つの構想でございますから、それはそれとして、このように理解してよろしゅうございますか。ただいまの御答弁で、昭和四十九年九月十七日の答弁のとおりである。あくまでも市長が答弁したように、あれは三中ではなくて、三中は考えの中にあるけれども、そうではなくて、便宜的なあくまでも呼称であって、学校施設用等であると。このように理解してよろしゅうございますね。

○教育長（安田豊作君） そのとおりでございます。市長から答弁のあった三中用地という呼称を現在では起債の関係で使っているということも私、違っていないという解釈でございます。

○一四番（石井輝久君） 以上で、質問を打ち切ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で一四番議員君の質問を終わります。

次、一七番議員石井武敏君。

（一七番議員石井武敏君登壇）（拍手）

○一七番（石井武敏君） 私は、通告してございます次の二点について御質問をいたします。

第一点は、大型店舗特にジャスコ等が市内に進出してくるといふ働きが、動きがありますので、それに関して商業活動の調整を市長はどのように考えておりますかという点であります。

もう一つは、老人福祉センターの施設充実についていかに考え

ますかという、この二点でございますが。

まず第一点につきましては、最近におきます市内の商業活動の一つの傾向として上げられるのが、商店の大型化及び大型店舗の他地域からの進出であります。特に大型店舗の進出については注目しなければならぬのは、関西大手ジャスコの進出計画であります。

聞くところによりますと、ジャスコでは市内三軒町の土地を確保するために目下地主と地所借用法を交渉中であるか伺います。この資本金三十二億、年商二千四百十億円のジャスコでありますから、その生産から販売に至る組織化した企業がもし市内に出店したとするならば、いままでの商業活動地図は館山を中心として大きく広範囲に塗りかえられると思われまふ。

ちなみに、ここで県内の他の市において大型店舗対策がどのように受けとめられ、扱われているかを見てみたいと思います。

まず、木更津市においてはジャスコ対策の一環として商業近代化研究会が発足をしております。この会は、自発的な地元の商店の有志により設置されたと聞いておりますが、現在七十名の会員を擁しており、ジャスコ進出の際には一階及び二階に百五十店のテナント入りを条件に共存共栄を図っていこうとするものであります。その目的に伴う活動はかなり活発であると言われております。

また茂原市におきましては、ジャスコが地上六階、地下一階で一萬五千平方メートルの売り場面積を有する建築を市に申請した際、地元商店会からこの売り場面積では絶対に受けられないとジャスコへ売り場縮小を申し入れたということでありまふ。

さて、館山市におきましては、現在商業活動をしている店舗は昭和五十一年度の商業調査によりますと一千二百四十四店であります。これらの店舗と大型店舗との商業活動の調整について市長はどのように考えておりますか。お尋ねをいたしたいのであります。

また、全国的には大型店に対する規制強化の声が強いのですが、これらは行政指導の強化で効果の得られるものでありましようか。どのようにお考えでしろうか。

また、別の面からこの問題を見てみますと、これら大型店舗の進出は市内の消費者にとっても利するところもあるわけでありますので、これらの御所見をともに合わせて承りたいと思う者であります。

続いて、次の問題ですが、老人福祉センターの施設充実についてであります。老人福祉法の中の第三章老人福祉施設には次のようにうたわれております。「老人福祉センターは、無料又は低額な料金で老人に対して各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に寄与することを目的とする施設とする」とありますが、これらの趣旨をふまえて老人センターの建設を示唆したのが昭和四十年四月一日付でございました当時の厚生省からの社会局長通達であると思われまます。この通達と相呼応いたしまして、それまで検討を重ねてきて昭和四十六年に建設されたのが現在のセンターであると思えます。

現在では、年間約二万人の人たちが利用しているわけでありますが、将来における施設の充実について市長はどのように考えて

おりますか。合わせて、このセンターの建設の目的であります四本の柱、一つには老人の各種の相談に応ずる、二つには老人の健康の増進、三つには教養の向上、四つにはレクリエーションのための便宜、この四点についてはどのように運営されているか。これは再質問のときで結構でございますが、細部にわたってお聞かせ願いたいと思います。

以上、御質問いたします。

(市長半澤良一君答壇)

○市長(半澤良一君) 石井議員の御質問にお答えをいたします。

大型店舗ジャスコ等の市内進出の問題についてでございますが、大型店が本市内に進出するというのが世評として取り上げられその出店した場合における地元商店街への影響が憂慮されておるわけでございますが、出店が確定した場合、その規模によつては単に地元小売り業者の売り上げの減少だけにとどまらなないと考えるわけでございます。

したがって、出店に際しましては、消費者の利益と保護はもちろん中小小売り業者の利益も保護しつつ、調和のある商業の発展を図るよう、地元の意思を十分反映させる対策を検討いたしてまいりたいと考えているわけでございます。そのために、地元中小小売り業者はもちろん関係機関等を含め、早急に大型店出店の対策要綱を成案し、対応いたしたいと考えております。

しかしながら、最も大切なことは、過般行われた商業診断にもあるとおり、自分たちの商店街を積極的に改善し、魅力ある町づくりをするためには、自分で、自分たちで一步を踏み出す以外に解決の道は開かれなと述べておりますように商店街あるいは

中小小売り業者のみずからの問題として、大型店対策を考えていかなければならないんだと考えております。

老人福祉センターの施設充実の問題でございますが、老人福祉センターの設備につきましては、センターを開設以来六年あまり経過いたしましたわけですが、その間、内容の整備に努めるとともに、この施設を利用される方、その他の方々からの御意見等を承りながら、逐次充実、改善を図ってまいりました。また、施設周辺との調和を配慮し、環境の整備も行っておりますが、加えて老人クラブ等から自発的な美化活動、奉仕作業も受け、良好な環境を保持しているものと考えております。

老人福祉センターは、地域老人の健康で明るい生活づくりの場、楽しみの場として地域に定着、昭和五十一年度中の利用者は一万八千七百八十余を数えておりまして、開設目的に沿い有効に活用されているものだと考えております。

このような現状を認識いたしまして、センター利用者の利便等を考慮し、今後とも施設の整備、充実により一層意を用いてまいりる考えてございます。

以上、答弁を終わります。

○一七番（石井武敏君） 再質問いたします。

まず第一点の大型店舗対策につきましては、市長さんは対策要綱をつくりたいという旨を明らかにいたしました。確かにいま市長さんの答弁の中にありましたけれども、これは大型店舗の進出ということは、安いものを消費者に供給するという確かに利便があるわけでございます。特に、大型店舗といいますが、関西の大手に至っては、食料品の生産から販売までの一貫した流通革命

という、そりいったものの一端を担っているということも確かにあるわけであります。

その反面、当然に既存の商店との商業調整がどうしても必要になってくる。これは明らかでございますが、市長さんはどういう見解に立っていらっしゃるかということをお伺いしたいんですが、それはまずこういった消費者に利する面があるという面で、これらの大型店舗の進出を市長さんはどういうような評価をして受けとめられているか。第一点お伺いしたいと思います。

○市長（半澤良一君） ただいま、石井議員さんもおっしゃいましたように、こういう企業が進出するということは、消費者にとっては便利が非常にあることはおっしゃるとおりでございます。また同時に、それが小売り業者に与える影響が非常に大きいということはそのとおりでございますが、消費者も、小売り業者もともに市民でございます。そうした利益の調和を図りたいというのが基本的な私の考え方でございます。

そのために、むだなそこで競争が行われて、そのために片方が傷つくというよりなことでは困りますので、両方の共存できるような体制ができるように対策要綱をつくりたい。そうして両方が協調し合って共存共栄していくという、そういう考え方を取っていきたい。その場合に、先ほど申し上げましたように、既存の小売り業者がいままでの商業活動に甘んじていたんでは困る。やはりそれに対する対応策をみずからの手で考える。そうした自主的な努力を認識を深めて、それに対応する努力が必要だろうというふうに考えているわけでございます。

○一七番（石井武敏君） 市長さんのお考えよくわかりました。対

策要綱もおつくりになるということで、また基本的な姿勢もよくわかりましたが、それでは今後のためにもこういった商業活動の調整を図っていく場所はどこへの場所、いわゆるいままで市内の商業活動の調整を図っているという場所がないと私は思うんですが、これは商工会でやっているのか、商店連合会でやっているのか、市の消費生活協議会でやっているのか、市の商工課でそういう検討もしていくのか、場所はどのへんにあるのか。また考えていच्छるのか。商業活動の調整を目的とした協議会とか、委員会とかいまだ設置されてないように思いますが、市長さんもこうした商業活動の調整をどうしても必要であるという時代的な流れの判断をなさっているわけでありますから、その検討していく場所をどこに進めていくとするのか。それをお聞かせ願いたくと思います。

○市長（半澤良一君） 現在の段階では、大型店の進出に対しましては商工会議所の中の商業活動調整委員会という組織がございますので、そこでやることになると思いますが、しかし、大型店出店の策要綱をつくります段階でそういったことも検討してまいりたいと思います。

○一七番（石井武敏君） 趣旨はよくわかりますが、対策要綱の骨子といえますか、方向といえますか、ただ対策要綱をつくるということはわかりました。しかし、その内容的なものはどのへんに照準を当ててやっているのかはつきりしませんので、私がいま手元に茂原市におきまして大型店舗の大規模店舗等出店対策要綱というのがあるわけですが、御承知のように、茂原市におきましては、ジャスコが進出した際にこういった要綱を作成した

わけでございます。これが今年の三月に作成されております。実際に用いられているわけでございますが、対策要綱の骨子をなすものは、いわゆるここにありますが、第三条の「準大規模小売り店舗を新設し、または増設しようとするものは、都市計画法第六条の規定による建築物の確認申請以前に茂原商工会議所又は本納商工会に次に掲げる書類を提出しなければならない」という届出の義務を課しているわけでございます。

ですから、こういった大型店舗の進出というのは、御承知のように非常に隠密裏に計画が運ばれているのが定石でございます。気がついたときに買収も終り、確認申請も終り、建物を建設中であるというよりな面が各所に見られているわけでありまして、そういうことで、そうなつてからでは後手後手になるわけでございますから、いわゆる茂原市でとっております確認申請以前の段階で、そういった規制以外の大きな店舗を建設しようとする場合には、それらの延べ面積とか、店舗の面積、平面図あるいは売り場の面積等々提出させるといったいき方が非常に適確ではないかと思ひわけであります。

茂原市におきましては、実際この要綱を用いてやっておりますわけでございますが、提出されましたそれらの書類は即座に市長及び商店街近代化協会にすみやかにその届出内容を知照すべきであるというようになつてゐるわけでありまして、ですから、商店街近代化協会は即座にそれを知ることができると。また、市にございます商業活動調整協議会が設けられておりまして、この協議会に届出の事項を付議しなければならぬ。こういうようになつてゐるわけです。ですから、すみやかにそれらが商業調整という目的の上に

検討されるようになってるわけですが、この市長さんの考えられておりますその対策要綱の骨子はどの様なものなのか明らかにしてよろしいところがあれば、いま明らかにしていただきたいと思います。ただ対策要綱をつくるべきであるというお考えだけなのか。あるいはこういった対策要綱が適当であるというようなことがあるんでしょうか。

○商工観光課長（中村正雄君）　ただいまの件でございますけれども、御指摘のように、茂原市におきましては、ただいま御発言のあったような内容になっております。県下におきましては、七カ所そのような要綱を作成し、一カ所が協定書によってそれらの調整を行うというのが実態でございますが、ただいまの要綱の内容についての考え方はどうかということでございますけれども、もちろん大型店舗法によりまして千五百平方メートル以上のものにつきましては、これは問題がないわけでございますが、千五百平方メートル未満の場合に、上限はもちろん千五百平方メートル未満でございますけれども、下限は市によりましては三百平方メートル以上、あるいは五百平方メートルこれはその市町村の商業内容によりまして若干違ってこようかと思いますが、この下限をどこにするかということも、今後要綱の中で検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、やはり届出に關しましては、開発行為を伴うものにつきましては開発行為を申請した時点。開発行為を伴わないものにつきましては建築確認書を提出した時点。これは市町村がこういった届出を受理するわけでございますので、市長はこれらの内容についてすみやかに商工会議所の方に通知をするというふうに

いたしたい。このように考えております。

商工会議所におきましては、これらの通知に基づきまして、商店連合会等の団体に対しては、内容を通知、必要に応じては商業活動調整協議会いわゆる商調協に付議してその調整をお願いする。その付議した結果について市町村に再度通知をもらうというような内容になるうかと思っております。

なお、大型店につきましては、義務づけといたしまして、地域住民とのトラブルは起こさないように誠意をもってこのような問題の処理に当たってほしい。こういうふうな一つの義務づけ的のものを与えるような形の中で今後検討してまいりたいというふうに考えております。

○一七番（石井武敏君）　あらあらの趣旨はわかりました。

そうしますと、対策要綱の内容や方向づけはほぼ茂原の用いてある出店対策要綱この線に沿ってやっているとということで解釈していいでしょうか。

○商工観光課長（中村正雄君）　中心はそういう形になると思いますが、館山市と大体規模の同じような場所のそういう要綱等も十分参考にしてまいりたいというふうに考えております。

○一七番（石井武敏君）　確かに、茂原市は人口六万七千あまり、それから商業活動している店舗も大体館山と同じ数だと思えますが、茂原の場合、第七条の方に「市長は、大規模小売業者または準大規模小売業者が次の一に該当するときは、各方面に通知するとともに状況を公表するものとする」という公表が設けられております。公表というのはどういふことかといいますと、先ほど申し上げましたように、大型店が出店しようとするとき確認申

請以前にそれらの類する書類を市の方に提出しなければならぬという、つまり第三条、第四条に規定する届出を行わずに出店のための業務をしようとすると、あるいはその後商業活動の調整協議会の趣旨に沿わずに、これに応じないときに、また調整に応じても調整ができなかったときというようにありますが、これは一つは考え方によれば罰則のようになるわけでございます。いわゆる市あるいは商工会議所、商店連盟等々に協力をしなかつたということ、非協力店としての公表の行為があるわけでございます。考えてみれば、これは罰則に当たると思いますが、こういった公表についてはどのへんまでお考えになっておられるのでしょうか。ただ届出をした際にそれを協議して調整していくということだけなのでしょうか。あるいはそのへんまで深く御検討が至らないのでしょうか。

○商工観光課長（中村正雄君） 確かに、御指摘のような罰則を持ちました公表を行うということになっておりますけれども、この公表についても若干やはり問題があるかと思ひますし、なおその公表の具体的な問題については成案の煮詰まる過程におきまして調査して検討してまいりたい。このように考えます。

○一七番（石井輝久君） それでは、もう一つお尋ねしますが、いわゆるこれを、商業活動を調整していく協議会の場所、これがいままでの御答弁の中ではなんかちょっとぼやけているわけですが、たとえば、茂原の例ばかり取ってあれなんです、茂原におきます商業活動調整協議会の内容は、三年前にできている協議会でございしますが、構成人員が十三名でこれは各層の代表が出ているわけでございます。たとえば、法人会代表とか、消費者も出ている

わけです。消費者の代表とか商店の代表、学識経験者、婦人代表大型店舗代表、卸売り業者代表というように、こういった協議会の構成の内容を見ますと、非常に館山市にあります消費者生活協議会ですか、それに非常に類似しているわけです。ただ、館山にないのは、こういった商業活動調整をするというそういった内容のものが消費者協議会には講じられてないという点が違うわけでありますが、そういった商業活動調整をしていく上に、ただ商工会とか、商店会というだけではなくて、もう一步幅の広い、茂原で用いておりますようなこういった各層の代表が集まってくるような協議会を用いるべきではなからうかと思ひますが、このへんいかに考えますか。お聞かせ願ひたいと思ひます。

現に、茂原市におきましては、これらの協議会が非常にフル回転をしております、数十回にわたり協議を重ねているといういきさつも聞いておりますが、その点、どのように考えられますか。お聞かせ願ひたいと思ひます。

○商工観光課長（中村正雄君） ただいまの件につきましては、先ほど市長から答弁がございましたように、やはり消費者の保護というものも合わせ考えていかなければいけない。このようにことに変わりはなくございしますので、その点十分配慮しなければならぬというふうに考えます。

なお、現在、商工会議所の中にございます館山商工会議所商業活動調整協議会この構成委員の中におきましても消費者代表が四名入っております。こういった関係をふまえて、重複しないような点等も十分考慮して人選等については考えてまいりたいと思ひます。

○一七番（石井武敏君） 十分各幅の広い階層の意見を集めてやってまいりたいという答弁がありましたけれども、そうしますと、市長さんにお聞きしたいんですが、どういふことなのでしょう、か、既成の委員会に構成メンバーを加えるとか、どういふように考えておられるのでしょうか。お尋ねしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 先ほどから御答弁申し上げておりますように、いま県内各所の対策要綱あるいはそれに類似するような要綱等を取り寄せまして検討している段階でございますので、まだ成案が出たわけではございませんので、御趣旨に沿うような、御趣旨も考慮に入れながら、これから要綱をつくりたいということでございますので、いまここでどうという明確な答弁はできないわけでございます。

○一七番（石井武敏君） 商業活動の調整につきましては、やはり各層の幅の広い代表が好ましいと思われるわけでございます。ですから、各千葉県内の商業調整を行っております各市を見ましても、構成メンバーがそういうことで各層から代表されたものが協議されておるといふのがほとんどであるようでございますので、そういう構成メンバーに関しましては、幅の広い用い方をして十分その商業活動の調整という目的が生かされるような方向に御検討願いたいと思っております。

また、今回の私の質問の骨子でございましたジャスコ対策でございますが、私も大規模小売り店舗の出店対策要綱をどうしても館山市には必要であると私も考えまして、感じまして今回の質問になったわけでございます。

ですから、対策要綱の目的は、あくまでも中小小売り業者と消

費者の利益を擁護しながら調和のある商業の発展を図

そうして大規模小売り店舗の出店に対しては適正な調整や規制を行いたいのが目的であると思いますが、その目的に沿って十分な御検討を重ねてこれをつくっていただきたいと思ひます。

また、御承知のように、この種の問題は、非常に土地の買収とか、出店計画というのはいさみんに知られないところで買収が行われていくというのが事実でございますので、いまいわさ程度でありましても、ジャスコが土地の借用に地主と毎週一回ですか、こちらに來て折衝を重ねているという事は事実であるようでございますので、これらが事実であるとすれば、当然出店計画というのは徐々に徐々に進展していくという傾向が見えるわけでございますので、なるべく早い機会にこの要綱を作成していく方向をおきめいただきたい。このように要望するわけでございます。対策要綱をつくっていくという方向がはっきりきまつておりますので、この点に関する私の質問は終了します。

それでは、老人センターの施設についてでございますが、この老人センターの四本の柱、つまり老人の各種の相談に応ずるといふこと、これは四本の柱の一つでございますが、どのような内容の相談室が設けられているのか。お聞かせ願ひたいと思ひます。

それから二点目に、老人の健康の増進について、特に健康の増進については健康相談も入るでしょうが、あそこでは入浴をしてマッサージをして休息をするということがおもしろいものと見受けられますが、この入浴時間についてですが、この入浴時間は開設以来といまとは同じ時間でしょうか。もし短縮されているとしたら、その理由を教えてくださいたいと思ひます。

それから次に、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を図るというこの柱でございますが、これはセンター内の現在使用されておりますさまざまな機械器具がありますが、それらの器具の設備は現在で十分と考えているのでしょうか。また現在の器具の耐用年数をどのぐらいに見ておりますか、いま使っている器具に実用に困難を来してはいないでしょうか。

以上の点、御質問いたします。

○福祉事務所長（越路良夫君） 老人福祉センターの各種の四つの柱に対する件でございますが、この老人福祉センターの施設につきましては、これは先ほど石井議員さんからお話のありましたように、それぞれの目的によるものでございますが、ただ対象が原則的には老人でございまして、現在市内にございます老人クラブとの関係もでございます。なお、老人クラブが自主的にやっております内容のものと、それから市が行う限界といいますが、接点というような問題もございます。

そこで、現在あそこで実施いたしております内容でございしますが、これは趣味のクラブであります囲碁でありますとか、あるいは将棋の関係、舞踊、民謡、詩吟そういうものとの関連、これは教養の向上もございまして、レクリエーションの便宜の供与ということにも関連すると思えます。

健康相談等の問題でございしますが、これは医師会との協力体制もございしますが、なおまた毎月定例的に市の保健課の保健婦によります健康相談あるいは助言そういうものにより老人の方々等の健康に関する相談も実施いたしております。

なおまた、生活、就職相談室というものも設けてございますが、

この中で職安あるいは会議所、その他の関係機関とのタイアップという中で相談もいたしているわけでございます。

なお、入浴時間等の関係でございしますが、これはかつては十一時から三時までということが入浴時間を設定した時点もございしますが、現在におきましては十時半から午後三時までということを実施いたしております。

なお、備品等施設類等の関係でございしますが、これは機械等によりまして、設備等によりましての耐用年数もそれぞれ違うことと存じますが、あそこは使用頻度等の問題もございします。そこで実際にあの施設を利用する方々が不便を感じないように極力あの施設の活用化あるいは皆さん方の利用を高めるということでの努力を今後ともいたしていきたい。以上でございます。

○一七番（石井武敏君） センターに設置されておりますマイクروبスがあります。これは現在どのように活用されておりますか。

それから、センターに設置されておりますポンプはかなり古いものであるように私思うんですが、ときどき故障するのではないかと思います。これは早急にかえていたいただきたいと思えます。バスに関してどのように現在使われているか。教えていただきたいと思えます。

○福祉事務所長（越路良夫君） マイクロでございしますが、これは購入は四十一年でございまして、その後老人福祉センターの方に移管がえというよりな状況でございまして、もっぱらあその利用者の方たちの送迎等に利用しているわけでございますが、これは五十二年度の予算積算の時点で説明いたしましたように、本年度この車の交換ということで予定しております。

○一七番（石井武敏君） いろいろと御説明願いましたが、老人がいままでセンターへ相談室に行ったり、いろいろの要望があると思いますが、老人の要望はいままでどういふものが一番多いんですか。老人がセンターに要望するもの、どういふものが一番多いのでしょうか。

○福祉事務所長（越路良夫君） 特に強くこれを要望されるというものについてはいままで承っておりませんが、あそこに老人クラブの方たち、あるいは連合会の方たちが常時おいでになりますので、そういう要望の面につきましても、今後十分に聞き、その面につきましても今後の改善等にはなお一層努力したいと思っています。

○一七番（石井武敏君） 了承いたします。
特に、老人福祉法の趣旨を生かしてセンターが運営をされるように希望して私の質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一七番議員君の質問を終わります。
午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会といたします。

午前十一時四十七分 休憩

午後一時二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。

二二番議員五十嵐 昇君。

（二二番議員五十嵐 昇君登壇） （拍手）

○二二番（五十嵐 昇君） 議案審議に先立ちまして、以下四点につきまして半澤市長の所見をお伺いいたすために御質問申し上げます。簡明、率直な御答弁をわずらわしいと存じます。

まず最初に、十萬都市の館山の建設について具体的方策なきやについて御質問申し上げます。

十萬都市建設は前市長本間 譲氏の公約でもあり、一大ビジネスでもあったはずでありましたが、その実現を見ずして退陣され今日に至っておりますのでありますが、十萬都市の建設こそ国の考える標準理想都市構想であらうかと存ずる者であります。

ひるがえって、当館山の場合、かつては六万を超える人口を持ったときもありましたが、逐年人口の減少を来し、現在では六万を欠き五万七千三百六十四人を保有するに過ぎない現状にあるのであります。消費都市、観光一季型都市としてはいたし方のない現状であらうかと思考する者であります。この過弊は館山のみならず、消費都市に共通するものであり、人口減少特に若い世代の人々が都会に集中のことは避けがたい通弊であり、近隣の木更津、君津、富津等の生産都市に比べれば、いたし方のない現実の悲哀であらうかと思っております。

また、当館山市は広域市町村圏構想の中心都市になっており、名実ともにリーダーシップを取らなければならない重要な地位にあると信じます。この広域市町村圏構想は自治省の重要施策であり、過密、過疎時代に対処して、国土の均衡のとれた発展を図ろうとするものでありまして、行政格差を解消し、人口流出の歯どめにしようとするものであると信ずる者であります。

そうして、その基準はおおむね人口十万人以上あることを標準とし、就業、生活物資の調達、医療、教育、教養、娯楽その他住民の日常生活の通常の需要がほぼ満たされるような都市及び周辺農村、漁村地帯を一体とした圏域であること。圏域内に都市的施

設及び中心市街のあること。中心市街地と圏域内の他の市街地及び集落を連絡する通信施設が整備されていること等必須条件があるとするならば、館山市こそその中心都市として重大な位置と責任があるわけで、圏域実施後の得失のあらましにつきまして御説明をいただきたいと存ずる者でございます。

第二点といたしまして、わが館山市も十万人の人口を持つことが理想ではありますけれども、なかなか実現困難である以上、まず六万都市の建設に邁進する。これは近隣の町村の合併をもってする以外にないとするならば、三芳村とか、富浦町等に働きかけ、その機運をつくり、実現にまで持っていく努力こそ大館山市の果すべき責任であり、ひるがえって、国策に沿うゆえんであらうかと存ずる者であります。

ことに、三芳村とは給食、水道、伝染病舎等の利用、また富浦町につきましては水道、給食等について利害得失を分け合っている共同体であり、容易に併合の実現は可能ではないかと思考する者であります。これらを土台といたしまして、十万都市構想の実現を図るべきであらうと存じますが、市長の見解を伺いたいと存じます。

第二点といたしまして、一大観光資源となる里見城の再建と沖の島海上公園の開発についてであります。館山市の置かれた自然環境からして、本市の収入源は観光産業が最たるものであるとするならば、その観光資源を守り、育て大切に其次代に引き継ぐことこそ、現時点におけるわれわれの責任であらうかと思つて、かつて私は議会の通告質問を通して里見城の再建を力説したのでありますが、そのまま今日に至っており、本年度

におきましてその調査委託料として三百万円が当初予算に組まれたことは、このことが一歩前進したかと思われ喜びにたえないところでありまして、この機運を数歩前進させて実現にまで持っていきたいと思う者であります。この点につきまして重ねて市長の御見解をお伺いしたいと存じます。

また、現時点において早急に取り組んでいただきたいのが城山公園の施設、設備の拡充であります。四季を通して市民のいこの場、慰安の場として活用、利用されておりませんが、少し勤的な施設が欲しい。子供たちが一日遊んでも飽きないような遊びの場が欲しいというのが市民の声として聞くところでありまして、山頂より見た景観、近くは三浦半島とか、富士の威容を仰ぎつつ、伊豆、相模の連山、また眼下に見おろす市街地のすばらしい景観こそわれわれの持つ大きな誇りであると思つておりますが、さて、南房総定期観光バスは館山から西岬の海岸線に沿って白浜のフラワーパークにとまり、さらに野島崎灯台を見学し、太海フラワーセンター、鴨川のシーワールド等を経て誕生寺と走り続けて、館山はほとんど素通りの状態に置かれておる現状であります。県立博物館にいたしても、また城山の景観にいたしても、また平砂浦の南房バラダイスにいたしても、十分館山をPRするに足るりっぱな施設、設備がありながら、国鉄バスが無意味に館山を通り抜けていく現状におきまして、何か納得のいかないさびしさを感じるものであります。

そこで、私はまず里見城の再建に先立ちまして、登山道を広くし、大型バスの駐車場を新設すること。歴史の町、ロマンの町、里見氏の歴史を書き込んだ里見絵巻を作成して館山の観光のしお

りとしてはどうかと存する者であります。

また、沖の島を開発いたしましたして、海水浴場あるいは水上動物園とか、あるいは釣り堀とか、海洋レジャーセンターを開設して都人士を誘致すること等、これに対する市のお考えを問う者であります。

第三点といたしまして、館山から海洋線づたいに西岬、洲の崎、西川名、伊戸に出て、伊戸から山間部に入り山の尾根あるいは山のすそを迂回しつつ、坂足から小沼に抜ける道路のうち、伊戸から坂足にまでハイキング道路として線引きをしたことがかつてあったと思うのでありますが、伊戸の圃場整備事業のとんざによりまして、その脚光を見ずして今日に至っている。現状におきまして、ぜひとも伊戸から山間部を経て坂足、小沼に至り、さらに砂山につなぐハイキング道路を完成させたいと願う者であります。歩け歩け運動の展開とともに、その意味におきましてぜひともこのハイキング道路の実現をこいねがう一員でございます。

最近、太平洋岸自動車道路事業団により、海岸線に沿って完成するであろうサイクリング道路の完成と相まってその実現を期したいと念願する者であります。市長の御見解いかにと。

第四点といたしまして、学校給食の現況についてであります。最近の物価高騰により給食費の実態はどうなっているのか。公費援助を強化して物価の値上りの影響を最小限度に食いとめるべきであって、パンとミルク以外の主食以外に副食費については公費援助しないのが学校給食のためであり、原則であると聞くのでありますけれども、父母の負担が限度にきていることを考えまするならば、副食費にも援助の手を差し伸べるべきであると思う

のであります。

次に、パン食と米食との調和であります。いまの子供は昔ほど米食を好まない。パン食と米食とを比較すると、栄養面で米食の方が劣るのも確かでありましょう。これは同じ量で比較した場合であって、学校で出されるパンを家庭に持ち帰ってくる子供がかなりあるかのように聞くのでありますが、かかる現状からしてはたまた米があり余って倉庫に寝ておる現状からするならば、こゝらで、栄養面は副食でカバーするとして、一週間のうち何回かは米食に切りかえたらどうかと、これは国策に沿うゆえんでもあるうかと存するのであります。

次に、公費負担も不可能だし、給食費を大幅に増減することも困難だとするならば、給食の回数を減少し、弁当持参に切りかえるよりしかたがないと思う者であります。弁当については母子のコミュニケーションが不足していると言われる現代におきまして、弁当をつくって持たせていくことに母の愛情の思いやりが含まれておるとするならば、弁当の持参も無意味ではなからうと、週二回ぐらいの米飯給食を考えてはどうか。こういう点につきまして市長の御見解を問う者であります。以上。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 五十嵐議員さんの御質問にお答え申し上げます。

御質問の大きな第一点は、十万都市館山の建設についての具体的方策なきやという御質問でございますが、その小さな第一点、広域行政圏実施の功罪についてということでございますが、安房郡市広域市町村圏事務組合は昭和四十五年九月に二市八町一村で

発足し、消防、火葬場、夜間医療待機施設、特別養護老人ホーム不燃物処理等を共同事業としてその成果も上っておりますが、振興整備に関する施策は、都市とその周辺を一体とした日常生活圏を単位として、関係市町村が相協力し、地域の総合的な振興整備を行い、その効果を高めるためでございます。国の財政上の優遇措置も数多くあります。たとえば、広域市町村圏計画の策定についての補助金、根幹事業についての補助金、地方交付税上の優遇措置、地方債の優先取り扱い等があるわけでございます。

質問の小さな第二点、まず六万を超える館山の実現と近隣町村の併合問題についてという御質問でございますが、都市の発展ということがどういう形であるべきかというところはいろいろ問題があるかと思えます。生活と生産の両機能がマッチしたそういう都市のあり方というものを私は考えているわけでございますが、人口がふえることが必ずしも都市の発展につながると思わないのでございますし、また人口の多いことが必ずしもいいことではなく、それに伴ういろいろの弊害も出てまいるわけでございます。そういう意味で、私は十萬都市ということには必ずしもこだわらないつもりであります。

また、近隣町村との合併の問題でございますけれども、広域市町村圏の振興整備の施策は市町村の再合併を意図して生まれたものではございません。あくまでも同じ日常生活圏内の市町村が協力して、地域の総合的、計画的な経営を行い、地域住民の行政需要にこたえていこうとするものでございます。

各市の実情が合併に適し、また住民もそれを欲する場合には合併ということになりますけれども、それはあくまで個々の地域に

よる住民の自主的判断によつてきめられるべき問題であらうと考えます。

質問の大きな第二点は、一大観光資源となる里見城の再建と沖の島を開発して一大海上公園とすることという御質問でございますが、その小さな第一点は、城山に里見城を再建して館山の一大名所とすることという御質問でございますが、三月議会でもお答えいたしましたとおり、今年度から館山城址の調査を行うことになっておりますので、したがって、この調査結果に基づきまして市民の皆さま方あるいは議会の皆さま方とともに考えてまいりたいと考えております。

第二点は、城山公園の施設、設備を拡充して市民のいこいの場とし、さらに外来客を誘致するために登山道を新設し、大型バスの駐車場を設置してはという御質問でございますが、城山の開発計画につきましては、先ほど石井議員さんにお答えいたしましたとおりでございますので、そのように御了承いただきたいと思います。

また、車での来客のための駐車場の確保これは大変大事なことでございますので、これについては鋭意努力をいたしたいと考えます。

第三点の里見城絵巻を作成して観光案内のしおりとしてはという御質問でございますが、現在、南総里見八犬伝顕彰会によって完成されました史跡観光めぐり御案内というパンフレットが発行されております。那古観音を初め八カ所の紹介をし、房総里見氏と八犬伝概要及びモデルコース等が掲載されております。したがって、この資料により関係市町村の統一案内として利用いた

しているわけであります。

なお、国鉄観光バスのコースには、御指摘のように市内施設での停車該当箇所はございません。特急での乗客を受け、特急に乗車できるよう考慮されたコース設定をいたしているわけですが、現在のところ時間的に市内での停車は無理ということでございます。今後は市内観光コースを別に設定してもらいうよう国鉄側と話し合いをいたす考えてございます。

第四点の沖の島を開発して海上公園にふさわしいものとしてはどうかという御質問でございますが、御承知のように本市は三十三キロにあまる海岸線と海を中心とした観光地でございます。このような自然の美しさを保全することは現在もまた将来にわたって必要でございます。

御指摘の沖の島の開発も一部市民の間でも取り上げられているようではありますが、市の総合的な見地から関連産業等への影響をも考慮し、観光地としての整備また開発を考えてまいりたいと存じます。

質問の大きな第三点、館山から西岬を経て神戸、平砂浦に至る山間レクリエーション道路開設についてでございますが、御指摘のように、かつてこの計画は自然休養村整備事業と開場整備事業を兼ねて、西岬地区の伊戸部落から坂足部落までの山間部の遊歩道の建設が計画されましたが、遊歩道路の取りつけ道路として計画しておりました開場整備区域内の道路が開場整備事業の中止によりまして建設できなくなりましたので、この計画も中止になったわけでございます。現時点では市の単独事業として復活する考えは財政事情と諸般の事情もございまして、持っておらないわ

けでございます。

第四点、学校給食の現況についての御質問でございますが、学校給食センターでは四十四年度開設以来四回にわたって給食費の値上げを行ってまいりました。これは給食用物資の物価上昇と内容の充実に伴う措置でございました。現在の給食費月額は小学校二千四百円、中学校二千八百円でございまして、この金額は周辺市町村から見ると低い方でございますが、経営努力によって必要な栄養、カロリーの確保が図られているわけでございます。したがって、本年度の値上げは考えてはおりません。

米飯給食の回数につきましては、本年度週一回の完全実施の予定になっており、これは県の実施目標にも合致するものでございます。米飯給食は子供、父兄に好評を得ておりますので、今後も継続することが必要だと考えております。

母の手づくり弁当の持参ということにつきましては、たびたびのアンケート等によりまして、なかなか賛成が得られておらないのが実情でございます。

以上、答弁を終わります。

〇二二番（五十嵐 昇君） ただいまの市長さんの御答弁で、市長さんの市政に対する取り組み方につきまして了承する者であります。

そこで、さらに御質問申し上げたいと思っておりますことは、あるいは要望でもあろうかと存じますけれども、広城市町村圏事業は非常にうまくいっているんだということでございますが、市民の声もそのように認めるのでございます。

まず、火葬場の運営等につきましても、非常に使用料とか、あ

るいは靈柩車の使用料、その他非常に運営がうまくいっていると。ただここで、送迎用のマイクローを備えていただくとなお便利なんだ。放送用のマイクローが利用できるまで一つお願いをしてくれというようなことを聞くのでありまして、この点、マイクローの設備ができないものかどうか。

それから、新年度の当初予算におきまして、六億八千万円の広域市町村圏総予算のうち、館山市が一億六千三百万円の負担額、そうして計上されておるのでございますが、これはどんな基準によって一億六千三百万円という多額の負担額になるのか。

なお、同僚議員の石井議員からの先ほどの質問にもございましたけれども、救急医療の活動状況について、どうも夜間などの場合においてはスムーズにいてないんだと、またそこに大きな心配をいたすという不安を聞くのでありますが、救急病院の医療体制につきまして課長さんから一応の御説明をいただきたいと存じます。

なお、市町村の合併問題でございます。館山市に三芳とか、あるいは富浦を合併する。これはもちろんその地域の住民の自由意思ではございますが、もう合併したいというふうな議員さんの、あるいはその土地の住民の声を聞くのであります。当然これは館山市からそういう誘致の手を差し伸べてしかるべきではないかというふうな意見も相当に議員さんの間にも出されておるといふことでございますので、これは大館山市としてそういう機運ができていんだと。したがって、その機運を完成させるのは、いわゆる三役を初めとした議員さんたちの処遇にもかかわっておるとそういうことになっていくならば、すぐにも合併に應ずる体制も

できておるんだというふうなことでございますので、そういう点も一つお考えの上で、数は力であるということも言われます昨今におきまして、六万を欠けておることでは何かさびしい感じがいたしますので、まず六万から、あるいはそれを拡大いたしまして十万都市ということまで持っていく方が館山市の発展に大いに貢献するのではなからうかと存ずる者でありまして、この点の御見解をお伺いしたいと思います。

なお、里見城の問題でございますけれども、これは旧館山として、ともすると、旧館山からいろいろな公的機関がほとんど中央の北条に吸収され、集められてしまっておる。旧館山には何にもないじゃないかというふうな不安も聞くのでありまして、館山城を建設する、里見城を建設する。これは旧館山市民のこぞ々の要望であろうと存じますので、この点につきまして、最大な関心を持って再建に乗り出していただきたい。

それからなお、城山公園の施設、設備の拡充でございますが、城山に上る道、たとえば、君塚さんのあの曲角あるいは上町の八百屋の前の曲角ではとてもじゃないが、大型バスは通れないんだ。国鉄も駐車しないと、城山を見ないというのもそこにかかっていんだ。したがって、具体的に申し上げますならば、上町と橋見にまたがるところの国鉄の現在空いております用地を、館山市において払い下げるなり、借用するなりして、あの道を延長して城山のすぐ下に連絡をするならば、直結をするならば、国鉄大型定期観光バスもとまり、見学をする場所とすぐなるんだ。現在の状況においてはせつかくとまりたくても入るのは時間をお食ってしまふ。また交通渋滞を来すとか、あるいは危険であるとかい

いろいろの理由で国鉄さんはあそこを素通りして直ちに白浜のフラワーパークに直行すると、こういう状況になっているかのように聞くのでありまして、ぜひとも登山路を城山の下まで新しく設けるといふことと、それから大型バスの駐車場を早急に国鉄用地を払い下げて、県のあるいは国の補助によりまして、りっぱな道路の開設をこいねがう者であります。

りっぱな施設を持ちながら、外来客の観光客の観光に何ら資していないといふことは、いたって残念なことでございますので、どうぞその点につきまして十二分に国鉄当局と交渉をいたしまして、城山公園あるいは安房博物館が、あるいは南房バラダイスがいずれかの見学場所を新しくつくっていくことが館山市の大きな観光の発展につながると思うのでございます。

ここに、南房号というパンフレットがありますけれども、このパンフレットの中におきまして、館山のPRのことはあまりに書かれていない。これが小湊誕生寺までの行程につきましてフラワーパークとか、あるいは野島崎の灯台とか、あるいは大海のフラワーセンターとか、あるいは鴨川のシーワールドとか誕生寺これに終っていることは非常に残念だ。このしおりの中にも、せっかく館山市自然を持ち、また小湊から来るバスの終点にもなっておる現時点におきまして、何の宣伝効果もない。館山は起点であり、館山駅とは密接な関係にある。館山にPRの何ものもないといふことは非常にこれはさびしい限りでありまして、観光課等におきましては十二分に配慮の上、国鉄当局と交渉いたしまして、りっぱなこういう施設を生かしていただきたい。こう念ずる者であります。

したがって、それには、まず声を大にして言うならば、昔の国鉄バスの楠見と上町にまたがるあの空いておる土地を市において払い下げるなり、借用するなりして、直ちに五、六十メートル田んぼを横切ればすぐ城山公園の登山道に達するのでありますので、その点十二分にお考えいただきまして歴史の町、ロマンの町としての館山のPRを十分に考えていただきたい。こう思う者であります。

なお、沖の島の開発につきましては、いろいろ費用もかかることとでございます。聞くところによりますと、サイクリング道路があつた沖の島のすぐこちらの岸辺を通って、そうしてずうっと築港の方を通り、安房博物館のすぐそばを通って北条につなぐ。北条のヤシ並木のすぐそばにサイクリング道路を建設する。こういう予定になっているのかのように聞かれます。

これは、太平洋岸自動車道路建設事業団というふうなこういう団体が、これは国の機関のようでございますが実施しておる。その先導をかついておるのが県の出先機関である安房支庁の安房土木である。こういうふう聞いておるのでございまして、館山市との連携等につきましてあまり緊密にとれていないというのが現状であるかのように聞きますけれども、これらと密接にサイクリング道路の建設、特に館山を通して西岬にまわり、西岬からさらに洲の崎をまわって西川名、伊戸と、ただいま市長さんの御答弁の中に伊戸から坂足に至る山間地域のレクリエーション道路の建設についてはちょっと無理かのようにお答えをいただいたのでございまして、サイクリング道路の建設に便乗するということとはちょっとどうかと思えますけれども、山間部落への遊歩道の

レクリエーション道路の建設も、私は館山の観光に大きくつながるものである。

われわれ、子供のときから砂山の絵の記憶ではいたっていいイメージを持つておる者でございまして、われわれの子孫に対しましても、そういった砂山のイメージをまた植えつけて、いわゆる郷土愛の深い館山市民の養成ということを考えるならば、ここで伊戸から坂足に至るレクリエーション道路の建設につきまして市長さんにさらにお考えをいただきたい。こう存する者でございします。

なお、いま申し上げました太平洋岸自動車道路事業団というのがサイクリング道路の建設に着手し、もう着々と白浜の方はほとんど完成して館山に入っておるんだということになっておるらしいので、まだビーチホテルのところ、どうも土地の漁業会と摩擦を起こしている。磯根を荒らすということで土地の漁業会とのいきさつがあるので、あそこでもんざしている。したがってあそこからしやうがないから上に上って砂山の方に行く道を通って鳩山荘の近くに抜ける道をいま考えているというようなことを申されておりましたけれども、これらにつきましても、館山市が協力をいたしましてその完成をして、市民のそういう遊歩道としてレクリエーション道路として利用することはどうなんだと聞いたら、それは大いにやってもいい。国の大切な公費を使用し、ての道路であるから十二分に活用していただいていいんだ。こういうようなことを土木出張所では申しておりますので、これらとタイアップをいたしまして、その道の復活につきましても一段の御努力をいただきたい。

なお、歩け歩け運動も市民の体位の面からも、この歩け歩け運動が功を奏してある。市民に好感を与えてある。あるいは青少年の健全育成にも役立っているという面からするならば、もう一度あの伊戸の圃場の真ん中を貫いて、そうして坂足に出てくるあの道路の復活の面もお考えいただけないかというふうに考える者でございします。

なお、四問の学校給食の問題でございしますけれども、なかなか給食費が高くなつて、そうして父兄の支払いは、ふところぐあいは苦しいんだ。一人、二人ならいいけれども、三人も、四人もある家庭では苦しいんだ。したがって、何とか公費補助をお願いできないか。いま国が主食に対して補助を出しております。相当の金額になっておると承るのでございしますけれども、市町村の各構成内において副食に対しても補助の手を差し伸べられないか。

それから、米飯とパン食の関係、アンケートを取ってみますとパン食と米飯両方を合わせてほしいというのが七六・五％、それからパンの給食だけがいいというのが六・四％、米の飯だけがいいというのが一五・七％というアンケート結果が出ておりました。やはり子供の嗜好は米飯の方に傾いているのではないか。こういう点からいいたしますならば、週一回の米飯でなくて、二回とか三回とかの米飯も考えてやるべきだと、それに併用いたしましてパン食を与えると、これが子供の嗜好も生かし、また体位を向上させる意味でいいんじゃないか。こういうことを考える者でございします。

いずれにいたしましても、これは市長さんの思いやりで解決する問題でございしますので、以上申し上げました点等を考え合わせ

まして、改善の方案を考えて具体的なあれをもって、そうしてわが館山の発展に寄与すると、こういうことで一段の御努力をお願いすることを申し上げます。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 二二番議員さんに申し上げます。

全部の答弁はいらないんですか。五点御質問申し上げたようですが。

○二二番（五十嵐 昇君） いや、五点にわたって重要な点だけを御説明願います。

○市長（半澤良一君） 送迎のマイクロバスの件でございしますが、これは広域圏の問題でございしますので、広域圏の理事会に諮ってみたいと思います。

広域圏の負担割合の件でございしますが、これは課長の方から御説明申し上げます。

救急医療の夜間待機施設の問題でございしますが、一月四日から先ほど石井議員さんの御質問にお答えいたしましたとおり、安房医師会との協定を結びまして一月四日から実施をいたしましたわけでございますが、一月四日から三月三十一日までの七十四日間で四百十名の患者を収容いたしました。

それから、近隣町村との合併の問題でございしますが、周囲の町村で合併の機運が盛り上っている中で、こちらから早く呼びかけをしたらどうかというお話でございしますが、大変重大な問題でございしますので、もう少し慎重に検討させていただきたいと思えます。

城山の開発につきまして駐車場、具体的に国鉄バスの元の用地をという御指摘がございしますが、これはよく検討させていただき

ます。相手のあることでございますので、簡単にいくかどうかわかりませんが、検討をさせていただきます。

それから、質問の第四点の館山から西岬を経て神戸、平砂浦に至る山間レクリエーション道路開設の問題について、自転車道路の建設からませてそれを実施したらどうかというお話でございましたが、自転車道路の建設について御指摘のような点をいままで聞いておりませんので、これも今後検討させていただきたいと思えます。

それから、学校給食の問題でございしますが、これは先ほども御答弁申し上げましたように、常にアンケートを取りまして、子供たちの希望を知りながら、希望がどこにあるかを調査しながら実施をいたしておりますので、いまのところ子供たちの希望に沿った給食が行われているというふうに考えております。

○市長公室長（小倉澄男君） 広域市町村圏の分担金のお尋ねについてお答えを申し上げます。

これは先ほど申しました総額で一億六千三百二十七万九千円が五十二年度の予算になっておりますが、そのうちの主たるものが常備消防の経常費と、さらに新しい分遣所の設置を含めまして一億四千八十七万七千円があるわけでございますが、これらの分担金の負担割合は、それぞれ内容によって規約によって規定されてございまして、たとえて申し上げますというところ、火葬場の葬祭具の運営にかかわる市町村の負担金については、人口割について百分の五十で、火葬体数割で百分の五十であるとか、それから不燃物処理については人口割とかそういうような規定でございします。ただ、常備消防の経費に関係いたしましたのは、経費が膨大であると

いうことで、これは常備消防に關しまする基準財政需要額を基準
といたしまして、各町村別にその需要額に対する各パーセントが
ございますが、本年度におきましては館山市が八〇％、鴨川が七
〇％、富浦が六〇％こういうような各パーセントによりまして算
出した額が結局結論としまして一億四千万になったわけでござい
ます。ですから、その他の二千万が先ほど申しました不燃物とか
火葬場とかそういうものの運営費。そういうことに相なります。

〇二二番（五十嵐 昇君） ただいまの御説明了承いたしました。

ただ、ここでちょっと市長さんの御答弁の中にサイクリング道
路のことについては知っておらない。こういうお話がございまし
た。これは私、きのう土木課長の飯田課長さんにその全貌を聞い
たのでございませうけれども、これは市の方にはあまり交渉がない
ということ、おかしいと思ひまして、安房土木にサイクリング
道路の起点はどこなんだ。それと終点と予算の關係はどうだ。完
成は何年ぐらいを見込んでゐるのか。館山に入る経路はどういう
経路をたどるのか。自転車専用道路となっているけれども、市民
の遊歩道として、あるいはハイキング道路としての使用はどうな
んだ。国営か、県営かどっちか。市の協力はあまり必要ないのか。
館山に入つての館山のサイクリング道路の完成はいつを見込んで
ゐるのかというよりなことで、安房土木の方といろいろお話した
のでありますが、どうもこれは国営で県が中心になってやってお
る。銚子の犬吠からずうっと太平洋の沿岸を通して館山に来て、
館山から金谷に渡つて、金谷から神奈川に渡つて和歌山までつく
るんだ。こういうふうなことを言つておりました。

市の方へは連絡不十分で申しわけないけれども、ともすると、

反対が多くてとてもじゃないけれども、むしろその方が支障を来
す現状にあるので、隠密裏と申しますか、内々にと申しますか、
そういうようなことで仕事を進めておる。こんな状態を話してく
れましたが、御参考までに。（笑声）

〇議長（吉田勇治郎君） よろしうございますか。

以上で、二二番議員君の質問を終ります。

暫時休憩いたします。

午後一時五十七分 休 憩

午後二時二十四分 再 開

〇議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き會議を開きます。

一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私は、次の三点について質問したいと
思ひます。

第一は、国道一二七号線館山バイパス路線の建設に当たり、市
はどのような調査、研究をされたか。

第二は、市道四九号線北条自動車から安房高東側に至る側溝の
整備について。

第三は、汐入川要橋下の市道の側溝についてであります。

まず第一の国道一二七号線館山バイパスについてですが、五月
十四日付けで館山青年會議所の国道一二七号線館山バイパス路線
に対するアンケート調査の結果が報告されています。

それによると、このバイパス路線の計画をよく知つてるといふ
者が七百四十六人中三二・三％、全然知らないが九・一％、少し
知つてゐる、聞いたことがあるといふのが五八・七％で、六七・七

の者がよく知らないと答えています。また、この計画をどう思うかということに対して七百二人中賛成が三八・五％。反対、わからないが三九・七％。条件つき賛成、その他が二一・八％の百五十三人で、そのうちの五十三人が意見を添えています。それによると、関係者と話し合つて納得の上で実施せよというものが三〇％、安全確保、公害、農地、その他への影響を憂慮する者が三六％。計画の練り直しを求める者が一五％、その他十人となっています。

この調査結果から見ても、わからないという者が圧倒的に多くて、意見を添えた八一％の者が実施について問題点を指摘しています。

このバイパス路線については反対、促進の住民運動も展開され議会においてもたびたび論議されていますが、道路の建設は地域社会の発展に役立つものと、逆に妨げになる場合もあるので、慎重を要する重要な問題であると思います。

市長は、議会の答弁で、現在の計画路線が最良の計画だと考えておりますので、変更する意思はございませんと言っております。最良の計画だという根拠についてどのような調査、研究をされたか、お伺いします。

次に、第二点の市道四九号線北条自動車から安房高東側に至る側溝の整備についてですが、この道路は片側に側溝がありますが十五センチか、二十センチぐらいの小さなU字溝であるため、雨水が道路にあふれて児童の通学に支障を来している状況であります。ときには、自動車もエンジンストップを起こすと言われています。また、付近の家では車の通過でどろ水をはねられるので、

戸を開けることもできず、特に房総米穀付近では床下浸水することもあるので、地域住民側から道路の両側に側溝をつくってもらいたいという切実な要望が八幡区の第四町内会長長田村 総ほか三百九人の要望に対する署名が連署で請願されました。しかし、この請願については八幡区の区長から農家組合との問題もあるので取り下げてもらいたいということで一応この請願は取り下げになりましたけれども、これは国民の請願権という観点から見ますと問題があると思うんですが、実情があるので私は請願議員として署名しましたが、この取り下げを認めました。しかし、三百九人の関係住民からの切実な要望として請願が出されたということは無視できないと思います。こういう側溝の整備についてどう対処されるか、お伺いしたいと思います。

第三点は、汐入川要橋下道路の側溝についてですが、この道路は先般ようやく舗装されましたが、側溝がないために雨水が汐入川に接した土手にさえぎられて排水ができないような状況になっています。土手に沿って側溝をつくる必要があると思いますがどうか、お伺いします。

以上です。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 渡辺議員の御質問にお答えいたします。

第一点は、国道一二七号線館山バイパス路線の建設に当たり、どのような調査、研究をしたかという御質問でございますが、御承知のとおり、国道一二七号バイパスは国の事業として実施されるもので、館山バイパス路線もその一区間として建設されるものであります。

館山バイパス路線の建設に当たり、どのような調査、研究をされたかという御質問でございますが、建設省千葉国道事務所は昭和四十七年度に経済調査として人口、産業の動向を調査し、また交通量調査については昭和四十年OD調査と申しますのは交通量調査でございますけれども、OD調査をもとに昭和六十年の将来交通量を推定し、その他概略設計、地質概査等を実施し、種々調査研究されております。昭和五十一年度においては館山市、富津方面のインパクト調査として自然環境面で農耕地、植生、生活環境への影響を調べ、昭和五十二年においては五十一年と同じ地区の環境インパクト調査を実施、生活環境への影響調査と、五十一年調査との総合評価を検討、加えて社会経済インパクト調査としてバイパス建設による便益量を把握する計画でございます。

以上、建設省千葉国道事務所では、ただいま申し上げました種々調査を実施するため、昭和五十一年調査費七百万円で実施し、今後さらに昭和五十二年で五百万円の調査費を組み入れ、調査に万全を期していることでございます。

市といたしましては、以上の調査について全面的に協力をし、調査、研究結果が反映された基本設計に対して、市は住民サイドに立って国と再度協力を重ねて、館山バイパスを促進してまいりたいと考えているわけでございます。

質問の第二点、市道四九号線北条自動車から安房高東側に至る側溝の整備についての御質問でございますが、市道四九号線の周辺は最近住宅がふえており、市といたしましても側溝を整備したいと考えておりますが、新たに側溝を設けるためには、それに接続する排水路等が必要でございます。また、放流先の状況も配

慮しなければなりません。

御質問の市道四九号線の側溝整備につきましても、当然接続する排水路等が必要でございますが、これが現在四九号線を横断し八幡から湊に至る農地の中を流れております排水路に接続するか方法がございません。しかしながら、この排水路は地元農業関係者が農業用に利用しており、ここに側溝を取りつけることは、家庭からの汚水、雑排水等が流入することになりますので、地元農家組合等とも話し合いたいとしておりますが、現段階では非常にむずかしい問題でございますので、今後も引き続き関係者等と話し合い、側溝を取りつけられるよう努力してまいりたいと存じます。

質問の第三点、汐入川要橋下市道の側溝についてでございますが、要橋下の市道の側溝につきましましては地域住民からの要望もあり、また、市といたしましても、生活環境の整備の面からできるだけ早い時期に側溝を取りつけるべく市道との境界確認を実施いたしましたところ、一部の建物が道路敷に出ており、これがため現況のままでは実施することは困難な状態でございます。しかしながら、その実現方につきましては、今後地域住民と話し合い、解決を図りながら整備を進めてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

〇一八番（渡辺軍治郎君）　まず第一に、国道一二七号線の問題について質問したいと思います。

ただいまの御答弁では、建設省が昭和四十七年から経済、人口、産業そういうことの調査をやっているようですが、私が質問したのは、国道一二七号線は館山市の発展にとっても非常に重要な問題

でありますので、市独自として市がどのような調査、研究をしてきたか。そういう点についてお聞きしたわけですが、建設省の調査に対しては協力していくというようなことでありますが、そこで私が質問したいのは、この一二七号線は富浦から那古山の裏を通過して、正木から一二八号線に接続する道路であつて、はっきり言つて千倉、鴨川方面への通過道路であると思ひます。この点についてまずどのようにお考えになるのか。聞きたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） お説のとおりでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） もし、そうだとすれば、千倉、鴨川方面に行く車の数は一日どのくらいあるのか。こういうことは当然調査すべきだと思いますが、いままでそういう調査もしないということは、これはどういうことなんでしょうか。

（「議長、一八番。答弁がないから時間がもったいないから」との声あり）

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時四十一分 休憩

午後二時四十二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（半澤良一君） ただいま、通過道路と断定をいたしましたか、これは訂正をいたします。通過道路だけではなくて、市内の利用者もそれぞれ利用する道路でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私が聞いたのは、先ほどは通過道路ということを答弁したから、それで通過道路、車はどのくらい通るかというように対して答弁ができないので、市内にというように非常に苦しい答弁だと思うんですよ。本当に真剣にこの道

路のことを考えるならば、これははっきり言つて千倉、鴨川方面の通過道路、道路の実態を見てはつきりしているわけですから、もしそういうようなことで館山市の利益になるのか。そうではないのかということは、もし車の数がわずかの数だったら、そういう道路をつくるために館山市が大きな犠牲をはらつてまでやらなければいけないのかという問題にまでつながるわけです。そこで伺ひいたわけです。

もう一つ、伺ひしますが、道路の問題ですから、館山市内の車が渋滞するのでこの一二七号線バイパスが必要だと、こういうふうに言つてゐるわけですよ。しかし、市内の車の渋滞というのは市外から入ってくるいわゆる鴨川、千倉方面に抜ける車が市内に入るので車が渋滞するのか。また、大体館山市内で車を持つてゐるのが大体どのくらいあるのか。そういうようなことで、市内の渋滞の状態をやつぱりどういふところに車の渋滞の原因があるかということ把握しなければ交通問題解決しないと思ひんです。

私が見たつて、大体国鉄のバス、日東交通のバス、それからタクシーが三社、そのほかに営業車がたくさんありますよ。一つの営業所で自動車三台、四台持つてゐる業者ざらにあると思ひんですよ。館山市内にそういう営業車や交通、運輸の事業をしている車や、一般の自家用車を持つてゐる車がどのくらいあるのか。そしてその車が市内を通勤にも使ひますけれども、いろいろな業務の必要上市内を回つて動いてゐるのが実情だと思ひんです。

だから、そういうような交通事情を調べて千倉、鴨川方面へ行く車がどのくらいの量があるのか。そういう点での比較で見ないと、この道路問題というものを考えていく場合に、先ほど質問し

ましたように、館山市民がほとんど知らないということですね。だから実態を明らかにして、こういう点で館山に利益があるんだと。こういう点で不利益があるんだという点で市民に知らせることをやらなければ、市民がどう判断していいかわからないわけです。そういう資料が明らかにされてないところに、いまこのバイパス問題をめぐって実は問題が起こってると思うんです。もう一つ、お聞きしますが、あの一二七号線は昭和橋通りにのせたわけですね。真つすぐにいけば南町交差点に抜けるわけです。これは市道の拡幅になるわけです。この点については新しく道路をつくるということではないわけです。拡幅なんです。

ところが、その中間から横にそれて、わざわざ今度移転する館高のすぐ下ですよ。それから幼稚園、北条小学校、南高の学校の間を抜けて一二八号線へつながる。これはどういうところからこういう路線をきめるのに調査、研究したか。

館山市は、本間市長の代から文教福祉都市がこれが一つの大きな看板になってるわけです。市長も今年度の施政方針では教育環境や、生活環境の整備に力を入れるということを言ってるわけですから、そういうたてまえからするならば、教育環境の破壊が起こるのか、起こらないのか。そういう点をどのように認識されているのか。なぜ真つすぐに南町の交差点まで市道にのせないで途中からわざわざ学校群の間を通るようにされたのか。ここの研究はどのようにされたのか。聞きたいと思います。研究してなければいいです。

○市長（半澤良一君） 市の都市計画道路にのせたわけでございます。それから学校等に対する影響はないと信じております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 学校に対する影響がないというようなことと、要するに市道の計画道路にのせたということでは、ちょっと市民も理解に苦しむと思うんですよ。

これは、議会で論議したときにも騒音公害、排気公害があるから、それに対してはしゃへい壁をつくるとか、グリーンベルトをつくるとかいうようなことを言ってるわけですから、当然公害が起こるということのはつきりしているわけです。いままでから見ても公害が起こるということを知っているながら、そういうところに道路をつくるということとは、いくらしゃへい壁をつくっても、つくってみなければどういう結果が出てくるかわからないわけですよ。

子供の生命や健康に影響を及ぼすような重要な問題、しかも教育環境を破壊するようなそういう問題をあまり真剣に考えないで道路をつくるということは、これは相当問題だと思っんです。だから、もしそういうようなことを父兄が知ったら、これはやはり心配でたまらないのではないか。多くの人がそういうことで心配しているわけです。

ところが、市民があまりバイパスの問題知ってない。市民の知恵を集めて道路をどこにつくったらいかということと路線の変更も出ていると思うんですが。市長は最善のこれが方向だということと押し切るということについては、あまりに調査、研究が十分ではないかというふうな気がするわけです。

もう一つお伺いしますが、海岸道路これはあの道路がつくられる前は白砂青松の関東第一の海水浴場であつたわけです。そこにあの道路ができたために観光が、私は海水浴場がある程度相当被

害を受けていると思うんですが、その点、市長はどういうふうにお考えになっていますか。

○市長（半澤良一君） 自然保護と産業の発展というのは常にある意味では矛盾、対立する場合がございますので、その調和という点から考えれば、決してあの道路が悪くなかったというふうに考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 海岸道路が悪くなかったというように認識ですからね。そこで、一二七号線バイパス道路の問題がこれが心配になるわけですよ。

あの海岸道路をつくるときには、田村市長のときなんです。自衛隊にその当時直結道路をつくるということで、あの海岸にその道路をつくられたら海水浴場をつぶされるということで、地元で大きな反対運動が起こったわけです。私たちもこの海水浴場をつぶされると館山の将来にとって観光上えらいマイナスになるということで反対運動にも協力しました。

そこで、道路をつくるならば、上の方の富士見橋から富士デューゼルに至るあの道路を拡張すべきだということを提唱したわけです。いまになって見ればどうなんですか。あの道路ができたために砂浜がつぶされて白砂青松の美しい海岸だった時分には、子供づれの東京から来たお客が夏が終るまで滞在したと思うんです。あの道路ができたために、結局館山に来る観光客、海水浴に来る客が減ったということは確かなんです。富浦、岩井方面に取られて、民宿にしても富浦、岩井方面がそのために繁盛している。館山の旅館が行き詰まっているというのは、これはもうはっきりしています。そういう環境資源を失ったためですよ。

だから、あの海岸道路ができて直接砂浜と接してたんではまずいからということで、ヤシ並木をつくってぼろかくしをしたわけです。海水浴にきてゆっくり保養しようということでも来たのに頭の上を自動車が行ったり来たりしていたら、都会の中にいるのか、観光地に来たかわからなくなるわけです。それからしょっちゅう車が行ったり来たりしているので、泊まる人がだんだんなくなるということで、道路ができてから旅館をやめて引込んだ人もいます。

そういうように、道路というのはいま考えてみれば、その当時は安上りのいわゆる国有地を使って道路をつくったわけです。あの道路をつくれれば補償費が大変だから金のかかる道路になる。あの道路をつくって観光資源を破壊した。いまになって見れば、そのことがはっきり反省させられる。しかし、市長は悪くはなかった。そういう認識ですから、そういう認識で一二七号線バイパス問題これを考えられたら困るということですよ。

だから、私がさっき言ったのは、昭和橋通り、計画道路があるからといっても、新しくつくらなくても済むわけです。拡張すれば南町の交差点につながっているわけです。当然いまでも、これから先も利用する人は利用できるわけです。それをわざわざ上の方に給食センターの下まで持っていくということは、千倉から鴨川方面に行く車しか通らないということです。しかも、学校群の間を縫うわけですから、大きな犠牲要するに教育環境そういうものを破壊してまでも、そんなに大きな犠牲をはらっても、その道路をこういうふうにはつくらなければならないのかどうか。私はどうもその点が疑問なんです。

市長が、海岸道路が海水浴場を破壊しない。あるいは結構なんだという認識を道路をつくる前と比較して考えているならば、これはかなり問題があるし、そういう考え方で館山一二七号線バイパスを考えるとしたら、あとになって道路をつくったら失敗した。取り消すというようなことはできないわけですよ。そういう点が心配になるんでこれをお聞きしているわけですが、市長はこれから先も、先ほども問題になった千倉、鴨川方面への車の交通量の調査、研究をやる考えがあるのかどうか。その点を聞きたいと思います。

○市長（半澤良一君） 工事主体が国でございますので、国の今後実施する調査に協力をしたい。そういう方向でいきたいと思っています。

○一八番（渡辺軍治郎君） 事業主体が国だからといって、国のやることだけに協力すると、国がいま考えていることは、市長が先ほど答弁したように交通の調査とか、そういうようなものは館山バイパスをつくるという上に立って出てないわけですよ。とにかく、いま申し上げましたように、教育環境やそういうようなものを悪くしてもつくるといふことです。当然市としても真剣に考えて、千倉や鴨川方面に行く車がどのくらいあるのか。いままで調査してしかるべきやつをこれからも調査するといふようなことをはっきり答弁してないんですよ。

私は、せんだって商工課から館山市の市内の交通の状態がどうかという事で資料を出してもらったんですが、これは五十一年の七月十六日と十八日に調べた市内の交通量の調査なんですけれ

どもね。これで見ると一二七号線、一二八号線そういうような調査は的確には出てない。要するに国道をどのぐらいの車が走っているのか、そういう問題が的確に出てない。先ほど申しましたように、市内の車の渋滞というのはかなりありますよ。一日二千台三千台往復というところもあります。それは先ほど言ったように営業車だとか、交通に従事している車だとかそういうような車がほとんどが営業上の必要から市内を一日じゅう走っていると、この交通量というようなものがある程度この資料によつてわかるわけですが、肝心のバイパス建設に関連してどうかというような交通量の調査は一つもしていない。そこが問題なんです。非常に市民の生活にとって大事な問題だといふ考えが薄いから、結局そういう調査をしてないんじゃないかといふふうに見られるわけです。

だから、そういう点で、これからもただ建設省が調査するからそれに協力するといふようなことでなしに、市独自でやっぱり調査、研究をしていく必要があるんじゃないですか。

私は、この道路の問題について心配になりますから、六月四日に建設省道路局の国道第一課の浜田という課長補佐に参議院議員会館に来てもらひまして、この人と一応いままでの経過、現実、将来にわたつていろいろ話し合ひをしました。その中で、国道は国の事業だ。それから富士ディーゼルの前から萱野に抜ける予定線がありますが、これは県の事業として建設省としては見ているわけです。経費の点については国が三分の二で県が三分の一というのは国道、県道かわらないわけですよ。経費の分担は。だだ、その地図を見せてもらったときに、この県の萱野に抜ける線につい

ては、県はやる気がないと書いてあるんです。これは問題だと思
うんですが、館山市にとって有利な線とすれば、下から上に萱野
に抜けるような中間までの線が一二八号線にみんなつながってる
わけですから、真ん中に一本通せば市内の道路は国道にみんな取
りつけられるわけです。そうすれば西岬方面にしろ、市内に入る
各車は国道から入れるわけです。しかし、いまの計画では正木か
ら真つすぐに一二八号線に行っちゃえば、市内に入ってくるとい
うのはそうはいかないわけです。たつたつながってるのは市役所
前のこの通りだけなんです。あと富浦から正木に抜けるわけです
から、そういう点から見て、建設省の国道局では館山市にウェイト
を置いてるというようにも言ってますが、実際路線から見
れば、ウェイトを置いたとは考えられないような道路なんですよ。

そういう点では、非常に調査がいろんな面から見ても不十分だと思
います。そういう点、今後建設省におまかせするんじゃないか
に、市独自として調査、研究する考えがあたりになるのかどうか。
私がいままで申しましたかなりの問題について調査、研究する必
要があると思うんです。その点についてどういうふうにお考えに
なるのか、聞きたいと思います。

○市長（半澤良一君） 建設省におきまして、先ほど申し上げまし
たようにインパクト調査もいたしまして、自然環境面から農耕地
植生、生活環境、それから社会経済面で人口、農業、水産業、工
業、商業、観光と幅広い調査を分析しているわけで、それを基本
設計に反映いたしているわけでございますので、もう基本調査は
十分だというふうに考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 基本調査というのは私が建設省の浜田

さんと会って話したときも、観光とか、産業とかいろいろのこと
を考えて、館山市は房総の都市の中心だから、館山市にウェイト
を置くということでそういう調査をやられたと思うんです。しか
し、路線の問題はその調査の上に立って、市長はいまの路線がそ
ういう建設省の考えに沿って、館山市の考えとも一致している
ということですが、この点はいくら繰り返しても話が食い違
うと思うんですが、少なくともですよ。道路をつくる場合には、
その道路が館山市の発展にとって役に立つのか。あるいはマイナ
スになるのか。そういう点は相当深く研究する必要があるとい
うことを、海岸道路をつくったときの例を挙げて、いまになってあ
の海岸道路を上の方につくって砂浜に返すというようなことはで
きないわけです。

そういう重要な問題ですから、くだいようですが、調査、研究
の不十分、そういうようなことで市民が何にもわからない。わか
らない人が圧倒的に多いという事態になっているわけです。市民
にそういうことをよく知らせて、市民の判断も仰ぐと、いろいろ
の人から意見を聞いて最良の方法でやるというのが為政者の立場
ではないかと思うんですが、そういう点、市長さんからは建設省
の計画一本やりだということでは、私は市民としてえ
らい不満を持つわけです。この点、繰り返してもそれ以上に出な
いと思いますから、ここでの質問は打ち切ります。

次に、四九号線の側溝の問題ですが、地元民の要望も非常に強
いわけですから、農業用水等の関係でこれがうまくいかないとい
うことですが、中央ダムの給水ができるようになれば、そういう
ふうにならなければ、あそこは排水路として完全に使えないのか

どうか。その点、ちょっとお伺いしたいと思います。

○建設課長（飯田治男君） 今年の一月にも地元の方ともほかの北原の水路のことで話をした席上でも、中央ダムの水がだいぶ遅れているということで、実際にこの三月もあの用水をかんがえ用水として田に引いておったわけです。

先ほど、渡辺さんからのお話もありました片側の小さな側溝でございますが、あれも地元で八幡の農家組合と話して、結局、自然水だけを流すということで当初敷設したわけです。それを各家庭が汚水を流すということで水が汚染されるということで、絶対に中央ダムの水がくるまで側溝を取りつけられては困るという地元の農家組合の意向が強いわけです。今後、いろいろ皆さんからの要望もありますので、浸水地点の排水だけはこれ何とか考えたいと思っております。

○一八番（渡辺軍治郎君） それから、要橋下の道路の舗装は勾配がついていますけれども、家の建ってる右の方の側溝はないんです。土手にみんなぶつかるとかです。土手がかなり五十メートルぐらい出ていますから、川に流れないで一挙に土手のところまで押し寄せて流れるわけです。せんだって行って見ましたら、土手のところを素掘りで掘っておりますが、土手のきわにU字溝でも入れて水をはけさせるようなことをしなければ、大雨が降った場合、鉄砲水のように走りますから、問題だと思いますが、そのところはどのように考えますか。

○建設課長（飯田治男君） その点、現地を見まして検討してみたいと思います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 以上で、質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一八番議員君の質問を終わります。

次、一二番議員栗原一雄君。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 私は、六月定例市議会に三点に大別して通告による質問を行います。すでに同僚議員より、私が五番目でございますので、重複いたしておる点もございます。もうすでに答弁を得ているものもございますが、一応通告でございますので御質問いたします。

第一点は、大規模小売り店進出に伴う既存商店街の商業活動についてでございます。一般的に大規模小売り店舗を大型スーパーと言われますが、現在の大型スーパーチェーンは、経済の高度成長と都市化現象の波に乗り発展した企業グループでございます。その出店政策も新しい都市化現象のパターンに沿って行われてまいりましたが、もちろんスーパーチェーンが急成長した原動力は社会的、経済的基盤が大きく変化したという事実であると考えますが、現在の小売り業界において最も新しい論理と技術で武装されたのがスーパーチェーンですが、近年特にチェーンオペレーションと言われる多店化政策を打ち出しており各地に出店及び業務提携による出店計画をいたしております。もちろん本市も一候補予定地ですが、出店に対する一般小規模小売り店に対する影響を憂慮する者でございます。

大型店舗の進出に対する地元商店街の近代化あるいは再開発という方向、手段はありますが、口では簡単に申しても、個々の条件的問題、資金問題等で、早急的な決定的解決策は至難であろうと存じます。

昭和四十八年十月に施行されました大規模小売り店における小売りの事業活動の調整に関する法律、一般的に大店法と言われますが、大店法による社会政策としての中小商店の保護と消費者の利益擁護をいままの大店法では、同時に解決することはまずむずかしいことであろうと存じます。

すでに、先ほど申し述べましたとおり、本市にも丁店が出店すると取りざたされておりますが、一部ではすでに同意書が取り交わされたと聞いております。

近年、特に東京都を初め近県においても県庁所在地あるいはおもだった各市に大規模小売り店舗が進出し、地元商店とのトラブルが発生いたしておりますが、その商戦のどろ沼化を防止するため一つの方向として、他府県あるいは各市が単独による大規模小売り店出店対策要綱を作成し、実施いたしております。本市においては大量販売店に対する商業活動調整指導要綱の設置についてどのようにお考えになられておられるか。

なお、既存小売り業者の正常な発展対策についてのお考えと将来の見通しについてお尋ねいたします。

第二点は、住居表示の促進についてでございます。わが国の住居表示制度は昭和三十七年五月十日に住居表示に関する法律が施行されて以来、全国的に逐次実施されてまいりました。この法律は、合理的な住居表示の制度及びその実施について必要な措置を定め、もって公共の福祉の増進に資することを目的とされており、これが実施されますと、住所が住居番号であらわされるために同姓同名が同番地にある不都合な問題が解決され、なお規則正しく規定されますので、緊急時や、住民基本台帳等の公簿類の

記録事務が容易となり、地域住民外の訪問でも簡単明瞭であり、郵便物や小荷物、電報等の遅配、誤配等の防止となります。

もちろん、この制度の実施に当たりますのは、長い間の行政機関を初め地域住民になれ親しまれてきました現況における制度を変えろことは、それに伴うわずらわしさ、呼びなれませんでした番、古いものに対する愛着、執着等種々のむずかしい諸問題が発生することは予想されますが、これが円滑な改正で、住居表示の改善による日常生活の合理化を図るべきであろうと存じます。それには、まず住居表示制度の趣旨の普及、徹底を行わねばと思いますが、どのようにお考えになられておるか。お尋ねいたします。

第三点、夏季観光シーズンを迎えての受け入れ体制についてでございますが、本市は首都圏の南端部に位置し、海岸線で冬もきわめて温暖な気候に恵まれた風光明媚な観光保養都市でございます。北に位置する山岳観光地とは対象的な性格であるが、同じく南端に位置する湘南あるいは伊豆地方のような開発された通年都市型観光地とは別な意味の一季型（夏型）観光地であろうと考えます。

その理由として、東京湾岸では海水浴場として機能を失った今日の湾内における唯一の最高海水浴場であると思えます。いかがでしょうか。

一シーズンといえども、観光とは旅行と同義語に用いられ、欧米においては見聞を広めるツアーと言われ、旅行の目的の一つに観光の意味が含まれております。それらの意味から申し上げれば本市は首都圏においては立地的な自然的資源、寺社及び里見由来の史跡、人情、風俗等の社会的、文化的資源の有形、無形の観光

資源に恵まれておりますから、発展の要素となる材料はきわめて豊富であり、各所に点在いたしております。

観光は、近年レジャー産業の一環として考えられ、経済用語としては第三次産業の一つと言われております。本市は大規模生産工場がなく、立地的条件から第三次産業である観光に力を入れるべきであろうと考えますが、少なくとも観光行為とは交通機関ホテル、旅館、民宿などの宿泊施設と合わせて娯楽施設等の関連施設の完備が必要であろうと考えなければならぬと思います。

観光事業は、ただいま申し上げたように、多くの分野にわたる複合体で関連する多くの産業の利益を生み出し、外部から本市に流入する新しいお金でございますが、観光客の消費するお金がこれらの関連する多くの産業にたずさわる関係者や地域住民の生活を支え、市内で飲食されたものは食料品等を通じて生産者につながっており、それらに伴う収益はすべて納税者により納付され、市の資本を蓄積し、さらには公共事業として市民全般に還元されているものでございます。

観光は、本市の産業基盤として大切なものであり、市民全体が積極的に参加すべき問題であり、新聞等によりますと、旅館組合銀座振興会の脱会、さらには民宿組合の役員引き上げ騒ぎとなっており、行政の指導機関を初め、口では観光に力を入れなければならない、安易に使用する言葉ですが、果して館山市民に与えられた立地的宿命として、観光事業をお互いの生活の糧として真剣に考えているかどうか。疑わざるを得ません。これは気候、風土に恵まれ過ぎた生活のゆとりからくるものなのか。お互いが考えそうして反省すべきは反省し、観光立市の立場で受け入れ体制を整える

べきだと思えます。

以上の点をふまえ、今回特に問題となっております観光協会の再建策、これからの受け入れ施設の整備について、市当局の明確な御答弁をお願いします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 栗原議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな第一点は、大規模小売り店進出に伴う既存商店街の商業活動についてということでございますが、その小さな第一は、大量販売店に対する商業活動調整指導要綱の設置ということでございますが、この点につきましては、先ほど石井武敏議員さんの御質問にお答えいたしましたとおり、早急に指導要綱をつくって対処いたしたいと考えておりますので、御了承いただきいと存じます。

第二点の既存小売り業者の正常な発展対策でございますが、この点につきましても、石井武敏議員の御質問に対しましてお答えいたしましたとおりでございますが、いろいろ消費者あるいは中小小売り業者等もひとしく市民でございますので、そうしたものの利益の調和を図りながら、全体の発展を図りたい。そういうふうに考えているわけでございますが、特にこの際、おつけ加えいたしたいことは、大型店出店対策として、また商店、商店街の改善、整備及び事業転換等を行う場合に、これに対する資金の融資のあっせん等の協力を当面いたしたいというふうに考えております。

質問の大きな第二点、住居表示の促進についてということでございますが、住居表示制度を実施しております自治体は、過密都

市あるいは人口異動の多いところでございまして、当市の場合には二十年以上在住している市民が七二％と人口異動が極端に少ないところでございます。

そういう意味から言えば、ある意味では住居表示の必要性が比較的薄いと言えるかもしれないと思いますが、しかし、現実の問題として、渚地区の北条二千二百九十番地、渚銀座の北条二千六百四十五番地、川名地区の川名七百五十四番地等に見られますように、郵便物等配送がきわめて困難な地区があるので、この解消策を現在検討いたしております。

住居表示制度を実施いたしますと、多額の支出と住民登録、戸籍、課税公簿等の多量の事務を必要といたします。また、現在使用しております土地財産番号であります不動産登記上の地番と、住居表示それ自体の目的をもって定める街区番号、住居番号をつけますので、土地の財産番号でございします地番と混乱することが予想されますから、慎重に関係機関と協議しながら検討していきたいと考えております。

大きな第三点、夏季観光シーズンを迎えるの受け入れ体制というところでございますが、一点は観光協会の再建というところでございますが、今回の観光協会の問題が基本的な組織及び人事関係にあったというふうに受けとめておりますので、今後におきましてはそうした点を十分配慮をいたしまして、関係者あるいは関係組織等の意見を聞きながら、観光協会の立て直しのために努力をいたしたいと考えております。

その前に、受け入れ施設の整備の問題がございましたが、今後の観光客の動向として家族的な旅行傾向が強くなってくると推測

されますので、先ほど五十嵐議員さんにお答えいたしましたとおり、市の総合的な観光地づくりの中で配慮をいたしてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

(一二番(栗原一雄君) 第一点につきましては、最初に申し上げたとおり、重複いたしておりますので、同じことを聞くのが非常にむだであろう。このように考えますので、少し触れてみたいと思います。

それから、第二点の問題につきましては、住居表示の促進についてでございますが、過密都市では必要であると、館山市はそんなに過密じゃないんだ。ですから、あまり無理押ししないんだ。このような御答弁でよろしいかどうか。これをまず最初にお尋ね申し上げたいと思います

これは法律で定められたものでございまして、千葉県におきましては、君津市以北につきましてはもうすでに実施されております。館山市におきましては、いわゆる宮城あるいは笠名というような無番地もたくさんございます。なお、私が生活いたしておりますのが長須賀地区でございしますが、その中には北条番地も相当の数が中心部を占めております。もちろん長須賀は館山地区に病院周辺にございます。また、上野原の変電所の周辺これも長須賀四百四十番地台になっておりますが、そのように非常に館山市の場合には入りくんだ形になっておりますので、やはり国がこのようにすべきである。しかもこれは法律的にもうすでに公布されているわけでございますから、当然考えなければならぬ。過密であるから、過密でないから。必要なんだ。あるいは必要でない。

このようなことでは答弁にならないと存じます。

次の問題でございますが、夏季観光シーズンを迎えての受け入れ体制でございますが、現在、館山市がやはり海岸線を一つの大きな観光財源といたしておるわけでございます。

すでに、御承知かと思いますが、館山市の広域商業診断報告書これは本年の三月に発行されたものでございます。その中に館山市のいわゆる魅力度というものがございまして、千葉県内十七市の調査によりますと、観光地でございまして、館山市の場合は夏季を含めると第五位にランクされております。しかし、夏季分の魅力度を引きますと、十七市町の中の下から二番目、果してこれで観光地かどうかということになるんですが、やはり夏のお客さまがいかにか多いかという数字がここに示されていると思います。

そういう意味から申し上げましても、もっともっと受け入れ体制を積極的にやらなければならぬわけでございますが、先ほど一四番議員さんの質問の中に駐車場の問題があったわけでございますが、あの駐車場の問題につきましても、いわゆる八幡海岸でございますが、現在、産業廃棄物が放置されておりまして、それに対する御答弁を私も聞いておりますが、しかし、あれを借りるのは市でございます。そういう意味から申し上げましても、館山市をただ北条地区に集中させるだけでなくして、やはり大腸菌そういったいわゆる保健衛生の面から申し上げましても、北条海岸より八幡海岸向こう寄りの方がきれいでございます。そういったことで、やはり向こうの駐車場は必要ではないか。県がわざわざ貸してくれる。私はそのようにお話を承っております。そういう

った意味から申し上げましても、先ほどの答弁を聞いておりますと、北条あるいは三軒町地区に集中させるんだ。このような御答弁でございましたが、やはり水も非常にきれいでございます。そういう意味からも、館山市を幅広く大ぜいの皆さんに来ていただく、また、保健衛生の面からもきれいな水、海水浴場で使用してもらおうということになれば、あそこの駐車場は当然必要ではないかと存じます。

それから、共同便所でございますが、あまりにもきたな過ぎるわけでございます。やはり生活しておれば、産業廃棄物と同じように出るものは出るんですから、もっと完全なものをやはり設けたらどうだろうか。

さらに、私がきれいだというお話申し上げましたが、北条海岸あそこの茶店の皆さま方は井戸水を使っているらしいです。果して洗いのだけに使っているかという、必ずしもそうではないと思いますが、隣の町千倉町では海岸線に上水道を設けた。このような新聞が先般報道されておりましたが、少なくとも内房地区におきましては館山市は観光いわゆる海水浴場としては唯一の海水浴場、先ほど私が申し上げたとおりでございます。そういう面から考えましても、やはり館山に来てよかった。水がおいしかった。しかし、ああいっぱ井戸水を使って万一事故が起きた場合には、悪い面で館山が大きく報道され、PRされるわけでございますので、そういう意味からも水道が本年七月には作名ダムが完成されますので、それに合わせて将来北条海岸にそういった上水道を設置をするお考えがあるかどうか。これについてお尋ね申し上げます。

○市長公室長（小倉澄男君） 住居表示のことにつきまして、まず

お答え申し上げますが、先ほど市長の答弁の中に過密都市という言葉が出ましたが、過密都市でなければやらずにいいということではございませんで、自治省の行政指導といたしまして、過密都市、人口の異動の激しいところからやっていけというのが指導要綱でございますので、そういう意味でございますので、御了解願いたいと思います。

そういう点をふまえて、市でもそういうことを考えました場合にいろいろな調査をいたしましたんですが、たとえて申し上げますと、六軒町地区だけでも約四千世帯なんですから、この四千世帯を中心といたしまして、概算住居表示を実施いたしましたとしても、これには一部分それぞれの住民の御了解を得なければできないことでございますが、やること自体にも賛成の方もおられるし、また反対の方もおられるので、その結果、やるわけでございますが、それにしても、住居番号をふるだけで約二、三万かかるということでございます、その後さらにそれに関連します役所内の帳票を全部直していかなければならないという非常に猛烈な事務量のかかる仕事でありますというのが、ざっくりばらんに申し上げたところでございますが、こういう点を考えますという、軽々にやるのはいから、やらなければいけないんだから、やらなければならぬという状況判断からいたしました現時点としてはまだその時点ではないのではないかという感じがいたしております。

ただ、先ほど市長の答弁にもありましたように、ある地区は同一地番で五、六十世帯ぐらいの世帯が同一地番の中に入っていると

いう点もございますので、そういう点については先進地でどういう処置をしているかという点につきまして、先般五十二年度である程度の予算をいただきましたので、そういう点につきまして先進地の状況を調査して検討してまいりたいというのが状況でございます。

大賀の無番地等につきましては、これはほとんどが自衛隊の官舎とか、市営住宅とかいうことが主でございます、それぞれ独自の住居番号がついておりますので、現況ではいろいろな郵便物等の配付につきましては、困難は生じてないという現況でございます。

以上、御答弁申し上げます。

○商工観光課長（中村正雄君） 公衆便所等が非常に汚いという御

指摘がございましたが、現在の公衆便所の中に特に北条海岸、それから長須賀商店街にございます公衆便所につきましては、海岸の清掃人夫等によってこれを行っておるわけでございますが、かつまた、衛生課等の応援もいたしておるわけでございますが、なおそのような状況にあるということでございますので、特に長須賀におきましては専門に清掃していただけるような点等も配慮していかなければならないと思いますが、夏に向いましての北条海岸の便所等につきましては、時期的にも一層清潔になるように考えて清掃いたしてまいりたい。こういうふうに考えております。

○水道課長（大嶋重義君） 北条海岸通りへの水道の敷設でございますが、あの海岸道路につきましては水道管は現在入っております。いま北条地区、中央水道の中でも特にいまの海岸道路、それからほかになお三軒町の通りと、これは国道ですが。それから

農協の前の通りをやはり下の三軒町に行く線でございますが、まだほかにも一、二重要度が劣りますけれどもございますが、特にそうしたものにしましては重要な路線でございます。

特に、海岸関係につきましては、先ほどお説のように観光の面からいっても非常に重要な幹線でございますので、現在の一次拡張事業が今年度、私どもはできれば来年の四月と言わないで、水に困っておりますから、できれば年内十二月ぐらいには何とか完全通水まで持っていきたい。このように急いでいるわけでございます。この一拡張事業が終了した時点で、いろいろの路線につきましても相当経費のかかることでございますので、なるべく早い機会に拡張事業が終了しました機会に敷設実現方を検討していきたい。このように考えております。

○市長公室長（小倉澄男君） 先ほど私、六軒町と申し上げましたが、間違いでございまして、北条地区でございまして御訂正いたします。

○一二番（栗原一雄君） 住居表示につきましては、千葉県内における昭和五十一年十二月末でございしますが、実施率は二十六市中十市が実施いたしております。本年度予定されておりますのが野田、市原、君津の三市が実施計画をもうすでに発表しております。

本年度は特に予算を組んだと、このようなお話でございますが私が申し上げておりますのは、もちろん住民基本台帳等公簿類をつくりかえると申し上げましか、ただいまの御答弁のように莫大の経費が伴うことは十分承知いたしております。もちろん実施いたしますためには、整備あるいは整理そういうような作業がきわめて複雑な作業がかかります。また、時間的な問題もあるわ

けでございます。当然それに伴いまして莫大な経費がかかることは予想される問題でございますが、そういう館山市の実態に合わせた財政的な見地からも一挙にやれ。このように決して申し上げてはおりません。将来、館山市が発展するであろうというような地域がたくさんございます。本年度は国の予算も緩和されたせいか、あっちこっち住宅が新築されておりますので、周囲から先ほど申し上げましたとおり、これから開発されるであろうということは、当然市に建築許可申請そういうものが出てまいりますのでわかると思います。

でございますので、私は市長の先ほどの答弁のように、過密の中心部からやってほしい。決してこのように申し上げますせん。

もう一つ、最近の新聞等を見てまいりますと、第三点についてでございますが、昨今の新聞を拝見いたしますと、市長は観光協会自身の手で再建策を立てることが一番よいことであると、このような新聞記事でございました。もちろんそういう意味から考えましても、協会の定款を大幅に改正して内部機構と合わせて人面あるいは今日までの観光協会のあり方について、一つ勇断をもって刷新すべきだ。このような私考をお持ちしておりますが、それには十分協会加盟の皆さん方に、答弁の中にありましたが、お話し合いをいたしていただいて、その中から一番いい方法を取るわけですが、最近、タクシーに乗りますと、タクシーの運転手さんが観光協会はどうなったんだろかと、どちらのタクシーに乗りましても質問されます。館山市に来るお客さんは、直接タクシーは、電車でまいりますと、最初に館山市のいわゆるお客

さまとの窓口、一番最初にお会いする人でございます。そういうことでよくいろいろ質問されます。館山市は夏になりましたも非常に商店街が早いじゃないか。富浦あるいは岩井のようにもっと遅くまでやってもらえないだろうかという、そのような質問が矢継ぎ早にくるわけでございますが、そういった面の指導。

それからもう一つお尋ね申し上げたいことは、本年度も八月の観光祭りでございますが、先般新聞等によりますと、鏡ヶ浦花火大会は市がやるんだ。このような見出しでございましたが、一般的に観光事業について継続して実施するのかどうか。そういうたお考えをお持ちになっておるかどうか。お答えいただきたいと存じます。

○市長（半澤良一君） 観光協会の再建につきましては早急にいたさなければならぬと思っておりますけれども、もう夏のシーズンも迫っておりますので、従来観光協会が行ってききましたような行事がなかなか今年を行うことができないんじゃないかと思っておりますが、ただ、観光協会がやってみりました仕事の中で花火だけは、これは長い歴史もあることでございますし、これはぜひ一つやりたい。市の手でもやらなければならぬ。

また、観光協会で行いますことのうちで、市の手でできますことは、一つ市でやろうという考え方で、観光案内所を四月から観光協会に移管をいたすことにいたしましたけれども、このような状態ではできませんので、引き続き観光協会が再建できるまで市の手でやらなければならぬだろうというふうに考えております。

○一二番（栗原一雄君） 住居表示の問題でございますが、この法律の中の八条の表示板の設置これも大変なお金がかかるわけでござ

いますが、住居表示制度が実施されますと、郵政省におきまして住居番号表いわゆる表示板、新住所通知用のはがきそういったものを市町村を通じて地域住民の方々に贈呈される。このようになっております。

現在、館山市におきましては、住居表示実施促進会というものが民間団体ですてにできております。そういう意味から申し上げますまでも、市民の一部におきましては必要である。このように考えているわけでございます。そういうことによつて、市民生活の合理化と申し上げましょうか。そういうものが解決できるのではないだろうか。このように考えるわけでございます。

それから、観光問題でございますが、先般行われましたサツキ祭り、四月に約百三十件の駐車違反の取り締まりを受けております。五月はさらに百七十件、そのように館山市が新聞あるいはテレビ等で館山市のツツジあるいは桜をPRいたしましたけれども、かえって逆効果を起こしているのではないだろうか。おそらくそういったところで駐車違反の取り締まりを受けたときは、来年度は館山に行かないよ。おそらくこういう答えが返ってくると思います。

そういう意味から申し上げますも、館山市が本当に観光館山と言えるかどうか大変疑問しいわけでございますが、同僚議員も先ほどそのような質問をいたしております。城山市の駐車場の問題も出ておりますが、ただむずかしいではなくて、国有地でも、県有地でもフルに利用できるものを積極的に市が借りるならば、個人的に借りるのではなくて、市が借りるならば可能であろう。しかし、私はそういう努力をしてないんじゃないか。このように考えるんですが、たとえば、今日まで北条海岸の関東電気さんの

空き地を昨年まで夏は使っておりましたが、話を承りますと、本年度は材料置き場に使うからというようなお話も承っております。しかし、大変あそこは館山市では観光と申し上げましょうか、館山においていただく方たちの大きな駐車場のスペースになっているわけです。本年度市で関東電気さんを通じてお願いに行つたかどうか。直接ではなくて間接的に聞きますと、本年度貸さないというようなお話も聞いておりますが、そういう交渉をされたかどうか。お尋ねをいたします。

○商工観光課長（中村正雄君） 北条海岸の駐車場の関係でございますが、御指摘のように関東電気工事のいろいろな施設の置き場になっているわけでございます。一昨年までは市の要請によって借り入れができたわけでございますが、昨年度は材料を置く関係でどうしてもお貸しできない。今年度は館山の支所におきましては貸してあげましょうというようなお返事がございましたので、公的な借入方としては本所まで文書をもって要請しなければならぬわけでございますが、その段階で本所サイドで材料を置く関係でどうしてもできかねるというようなことから、やむを得ずお借りできなくなつたという状態でございます。

○一二番（栗原一雄君） あとの問題につきましては、同僚議員がすでに質問いたしておりますし、なお答弁も返ってきておりますので、一応これで打ち切らせていただきます。以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一二番議員君の質問を終ります。暫時休憩いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一五番議員辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）（拍手）

○一五番（辻田 実君） 御質問を申し上げます。

本日は、午前中より五名の議員が質問し、お疲れのことと存じますが、最後の質問者でございますので、よろしくお願いをいたします。（拍手）

私の質問の第一は、市街地における定期バスの正常運行についてでございます。現在、館山駅から銀座通り、そして長須賀通りに至る商店街に面する国道は非常に狭くて大型化した定期バスの運行に支障を来しております。特に買ひもの時間における自動車の一時停止による定期バスの運行妨害は目にあまるものがあります。

最近では、交通整理員の婦人警官が駐車違反の摘発をしておりますが、表通りの大量輸送の流れを円滑化させることを目的とすることよりも、むしろ交通量の少ない裏通りに駐車している車を中心に罰金をいかに多く取ろうとするかに重点が置かれているように見受けられます。したがって、もっと適切に市街地の指導がでないものか。この点についてお伺いをいたしたいと思います。

また、館山市内の道路は都市計画の立ち遅れから、どだい大量の自動車交通には無理があるのは周知のとおりでございます。

しかし、この懸念条件の中でも市としての解決策はもっとよいものがないのか。具体的にどのような交通課等では取り組んでおられるのか。お伺いをいたしたいと思っております。

午後三時四十七分 休憩
午後四時 五分 再開

次に、こうした状況の中で、商業活動、観光政策の面からも、市街地に市立の駐車場がないことは交通政策の面でも大きな支障をもたらしているものと思われます。設置の計画はどうなのか。この点についてお伺いをいたしたいと思います。

二番目の質問に入ります。館山二中の講堂建築についてお伺いをいたします。二中も三カ年計画でようやく建築は完成いたしました。そこで、次に講堂建築が残され、この完成が一日も早く実現されることを全校生徒と学区民は待ち望んでおります。

最近、体育館建設に切りかえて利用面に重点を置いた多角的利用をもくろんでいることがさやかれておりますが、二中の講堂はいつ、どのように、どのような形のものでできるのか。その計画と見通しを明らかにしていただきたいと思います。

また、二中には学校建設期成会ができております。何度か市と教育委員会に代表が訪問しているようですが、どのような話し合いをし、その結果はどのように具体化されているのか。お伺いをいたしたいと思います。

次に、三番目の質問に移ります。公共施設の文化的様式の採用についてお伺いをいたします。

半澤市長は香り高い文化福祉都市の建設を常に強調されております。館山市民が美しい空と自然の緑と海の青さの恵まれた環境の中で、文化的生活を追求することは非常によいことであり、すばらしいことであろうと思います。しかし、文化というものは形而上のものだけではなく、形而下のものが大切であります。すなわち、文化とはより人間的なものの追求であり、自然と理想を実現する人間活動であり、それによってつくり上げられた結果でもあ

ると思います。

そこで、館山市の代表的建築物である学校においては防音校舎で進められております。この防音校舎は飛行機の騒音を防ぐことに大きな目標があり、より人間的理想を追求する文化的要求からはかけ離れている面が往々に見受けられます。最近、県内の各市に建設されている小、中学校の校舎を見ますときに、すばらしいものがあります。これらと比較してどのように今後の館山市の学校建築をお考えになられておられるのか。お伺いをいたしたいと思います。

また、学校のみならず、図書館等の公共的建物もこれから五十年、六十年と使用するわけでございますが、もう少し文化的に思いのする美しい房総の自然とマッチしたものを建設する考えはないでしょうか。お尋ねいたしたいと思います。

次に、四番目の質問に移ります。観光行政についてお伺いをいたします。三月議会の大きな目玉政策として鳴りもの入りで打ち出された市営観光案内所の移管についてお伺いをいたします。

観光協会が現在実質的に機能を失っているような報道がなされておりますが、これからこの問題はどのようになっていくのか、わかりやすくかつ具体的に説明をお願いいたしたいと思います。

また、今年度の施政方針で観光協会と市観光行政とは表裏一体をなすものでありますと述べられております。このことは、市長が観光協会の会長に新しく就任するのではなからうかという観測が流れていることと関係を持つものかどうか。この点についてお伺いをいたしたいと思います。

と同時に、自主観光の理念と移管後の市観光行政とは表裏をな

すということとどんな関係になるのか。具体的に、こうした状況の中でございますので、御説明をいただきたいと思っています。

さらに、観光館山市をモットーとする市が、三月議会で五百九十万の補助金を観光協会に交付することを議決したわけでございますが、その後わずか二カ月足らずにして、観光協会が今日のような状況になることが予測できなかったのかどうか。この点についてお伺いしたいわけでございます。そこには市と観光協会の癒着とか、対策の甘さがあったのではないかと思われすがこの点をどのように考えておられるのか。お伺いをいたしたいと思います。

そうして、現在、市長は観光行政の根本的育成と観光協会の再建に対する対策をどのように考えておられるのか。改めてお伺いをするところでございます。

以上、御明快な御答弁をお願い申し上げます。(拍手)

(市長半澤良一君登壇)

の市長(半澤良一君) 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな第一点は、市街地の定期バスの正常運行についてでございますが、昭和四十八年頃でございましたか、銀座通りで歩行者天国を実施しました際に、下り線バスを昭和通りに、上りバスを熱海荘前右折で実施したことがございましたが、バス運行上の実績はまことに不良でございました。以上から考えられるところ、銀座通り商店街の改造に伴う国道の拡幅しかこの問題解決の余地はないのであらうと思いますが、この件につきましては辻田議員御指摘のとおり、十数年来の懸案でございまして、一つは防災街地としての商店街振興法による改革案もあり、その後昭和

四十八年館山駅舎建設期成促進運動の一環として銀座通りの改造案も進行了たのでございましたが、いずれもその重要性は十分認識されておりながらも、おのおの商店個々の意思決定が困難をきわめて不調に終わっている現況でございます。

いずれにいたしましても、地元商店街皆さまの強力なる意思決定がまず先決でございます。さらに、地元地権者の協力が必要でございます。この協力をなくしては商店街の改造、道路の拡幅は考えられません。

しかしながら、最近、駅舎改築期成会の会合が再び開かれて、駅を中心として商店街の再編計画についての機運が再燃いたしておりますので、市といたしましても、この運動を尊重して慎重に対処してまいりたいと考えます。

違法駐車の問題でございますが、違法駐車 of 整理も具体的な効果は認められず、駐車場を仮りに設置できたとしても、買ひもの客の車は減少しますけれども、商品の配送車両の駐車を排除することは不可能と考えられます。

質問の第二点、館山二中講堂の建築についてでございますが、現在の第二中学校講堂は健全建物でございますので、改築には文部省の補助が得られないわけでございます。したがって、市民の市民体育館建設への強い要望もございまして、講堂とは別に二中校庭の一角に社会体育施設としての文部省補助による国民体育館を建設して、学校と一般市民に共同して利用してもらうことを考え、現在検討を進めております。

学校建設期成会をどのように理解しているのか伺いますという御質問でございますが、二中の校舎建設期成会は昭和四十七年の

火災で校舎の一部が消失しました際、PTAの間に校舎改築の関心が急速に高まって結成されたものと存じますけれども、会の内容等につきましても詳しいことは市においてはわかりません。しかし、校舎の改築も一段落いたしましたので、あまり動きはないように考えます。

第三点、公共施設の文化的様式の採用についてという御質問でございますが、学校、公民館等の公共施設の建設に当たっての文化的要素を導入するという御趣旨の御質問と理解をいたしますが、確かに本市における教育関係施設につきましては、文化的見地から見まして確かに御指摘のとおり不備の点もございますので、今後建設に当たりましては、十分御意見を尊重いたしまして改善してまいりたいと考えます。

第四点、観光と行政についてという大きな御質問でございますが、その一点、観光案内所の移管はどのようになるかという御質問でございますが、この案内所につきましては三月の定例会におきまして申し上げましたとおり、本年四月一日より観光協会におきまして運営することとなっております。基本的にはその方針は変わっておりません。しかしながら、御案内のように観光協会の組織を中心とする問題が生じておりますので、この解決への努力と並行いたしまして善処をいたしてまいりたいと考えております。

第二点、観光協会と市観光行政とは表裏一体をなすものというけれども、具体的にはどういふことなのかという御質問でございますが、市の観光行政は観光開発と恵まれた自然の保全との調和の中で個性的な観光地づくりを図り、合わせて観光客の誘致の宣

伝、紹介を行ってまいっているわけでございます。

また、館山市観光協会も会則に明らかにするように、観光客誘致のための諸宣伝あるいは受け入れ体制の整備改善と観光事業の振興を図り、館山市の観光都市的發展に資するとされているわけであります。

こうした関係から、お互いに相關関係をふまえ協調していかねければならないわけでございます。しかしながら、観光行政の中で、観光資源の保存と開発との調整等は市で行わなければなりません。他の部分におきますものについては性質上、民間の創意と工夫によればより豊かな内容となるものが少なくありません。むしろ現実には密着したものが生まれてくると確信をいたしております。したがって、市の観光行政と館山市観光協会とはたえず提携を強める中で、館山市観光発展のために努力をしなければならぬものだと考えております。

なお、私が、市長が観光協会長を兼ねるといふ意味かということでございますが、そういう意味ではございません。

第三点として、観光館山市をモットーとする市の観光対策の見通しが甘いのではないか。根本的育成と改善についてという御質問でございますが、前半にもお答えいたしましたとおり、観光客誘致のための事業及び宣伝等を中心にし、案内、配宿等市とともに観光協会においても実施してまいったわけでございます。今後ともより内容の充実を期待し、案内所業務等も関係者との密接な連携の上での実態把握を望み、協会からの要請に応じます。またあるものへの発展を願ったのでございますが、たまたま今回のような事態となり、残念に思っておりますが、これはこうした事態

になることは当時は予測はできなかったのですが。今後は関係者の意見を十分聞きながら、栗原議員さんを初め皆さま方にお答えいたしましたとおり、協会は協会みずからの運営という基本線の中で、協会としてのより活発な組織活動が行えるよう会則等の改善を含め、新しい組織づくりに意を用いまして新発足し、正しい軌道に乗り得るまで努力をいたしたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一五番（辻田 実君） 二、三点答弁漏れがあるようでございますけれども、再質問の中でただしていきたいと思えます。

まず第一点の市街地の定期バスの正常運行についてでございますけれども、ただいまの答弁でございますすると、都市開発による道路の拡幅ということができない状況の中では他に方法もないだろうと、こういうことでございますけれども、確かにそれは一つの根本的な問題としてそうかも知れませんけれども、しかしながら、今日の状況の中において都市改造というものが三年とか五年先に実現できるというふうな見通しのない中でございます。

このうちでもって、少なくとも相当長期の期間こうした状態が続くという中において、少なくとも定期バスぐらいの正常運行が確保できることを優先的に考えていかなければいけないんじゃないでしょうか。

私もこの件について調査したんですけれども、いろんなマイカー、その他が発達しておりますけれども、定期バスによるところの観光客等の輸送はやはり根幹になっております。相当の量です。日東交通さらには国鉄バスの輸送というものは、これが全国のダイヤに何時に館山駅に着きます。何時にどこそこの停留所を通過

しますというふうに、夏の時期なんか三十分遅れるのは普通です。二バスぐらい前に乗らなければ接続するダイヤとのあれができないという状況が出てくる。この根本的な原因が北条市内に入ってきてから、ほとんどあそこを通過するのにひどいときには三十分ぐらいかかるということでもって、運転手も頭にきちゃうというふうな状況もあるようでございますけれども、次から次にひっかかっていく。こういうことでございますけれども、少なくともマイカー、その他については、多少問題があっても困りますけれども、定期バスだけの正常運行それについてはかなり時間的にこういう状態、道が悪いからこれだけの時間を取らなければいけないということをやダイヤ委員会を設けて、経験と実績に即して組んでおるのにもおかわらず、それが大幅に遅れるということについては、市の交通政策として何をさしおいても問題だろうと思えますので、都市改造云々という問題もあるけれども、この点について処置できないか。

たとえば、市長は先ほどの答弁の中でもって商品の配送等の問題がございますので、こういうことでございますけれども、これはやはり大きなものになってるうちの一つだということが言われております。これらについてはやはり商店街等の話し合い、それから業者との話し合いによる時間設定とか、そういうようなものを設けて、初めは多少いろんな時間の行程を組んでくるから、館山だけその行程を組んでくるというわけにはいかないかも知れませんが、徐々にそういう時間設定をしていけば、いろんなコカコーラとか、いろんな何とか商店、パン屋さんとかそういうものが同じ時間帯にある程度やっていくことによって防げると

いう形もおいおい出てくるのではないか。そういう処置等も取りながら、もう少し改善できるのではないか。

私は、特に日東交通の運転手の人と何回か話し合った結果、もう少し行政が細かくあそこの一時駐車の問題とか、配送車の問題これらについて時間調整とか、そういう指導をしてくれれば相当解決できるんじゃないかということを再三言われておるわけなんです、一つやってくれ、やってくれということでもいいお私しかけられて、聞いてみると運転している当事者からの意見としてうなづける面があるので、こちらへんについて具体的にやっていただけないかどうか。一つお伺いいたしたいと存じます。

○市長（半澤良一君） 銀座振興会のあの通り、銀座通りにつきましては一定期間内に定期バスを除く一般車両の乗り入れ禁止を検討してもらうように銀座振興会に申し入れをしております。まだその回答を得ておりません。しかし、今後もしそういう方向で努力を重ねたいというふうに考えております。

○一五番（辻田 実君） いろいろの方法があると思いますが、それらは今後の話し合いを仕事を進めていく中で解決方法を一つお願いいたしたいと思います。

二番目の二中の講堂問題でございますけれども、市長も答弁の中で国民体育館の共同使用というようにことについて検討している云々という答弁があったわけでございますけれども、この点についていまだ少し深く知りたいと思います。

当初、私も文教委員会に所属しておるときに二中の防音校舎計画というものが出まして、本体工事が三カ年続いて、講堂、その他の施設という形でもって了承されました、その方向に進んでお

ったわけでございますけれども、いつこの国民体育館に移行するというものがきめられたのか。この点について一つお伺いしたいと思います。

それから、先ほどの質問の中でもって若干答弁漏れになっておりますけれども、期成会等そういう団体との話し合いを市長、教育長等数回やられておるやにわれわれ報告を受けておりますけれども、その内容はどういう内容が話し合われておるのか。その結果はどういうふうに進展しておるのか。簡単に結構でございますから、先ほど答弁漏れになっておりますので、合わせてその点について明らかにしていただきたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 国民体育館、現在二中の状況について申し上げますと、校舎が建ちまして、あと体育館と講堂どちらかが大体千平米弱が基準でございます。現在の講堂と武道館を入れますと千平米を上回りますので、ですから、現在の二中の校舎、その他の施設については完全であると、帳面の上ではそうになっております。台帳の上では。

しかし、二中の現在の状況を見ると、あの講堂というのが二階があつて、七百平米ぐらいですけれども、実際使われているのが五百ちょつとのところで卓球、その他で本当に過密状態で使われています。ああいう状態を見たときには、むしろあれを建てかえるより、あれを建てかえるというのと、あの面積しか防音校舎では建てられないという状況でございます。七百平米ぐらいしか建てかえられない。それならば、健全ですから、あれをあのまま残して、それに約倍する面積の国民体育館をつくる方が二倍の面積を使えるということで、その方が学校としても有利だ。こういうふ

うに私も教育委員会は考えたわけでございます。

その点が、今度は第二の質問の期成会等の方はどうかというところでございますが、期成会の方と話し合ったという経過はありませんですが、そんなんで期成会長と思われませんが、そういうことは言いませんでした。私は期成会長だと思います。一人はPTA会長、一人は校長三人で私会しまして、講堂、体育館の建設について促進してもらいたい。こういうことでいま検討している。こういう話し合いを二、三日前にした。それぐらいの経験で期成会については知っております。

○一五番（辻田 実君） 講堂等については防音校舎の建設計画当初やる中にはなかったんですか。変わったんではないですか。その点について。

○庶務施設課長（汐崎政光君） 防衛庁の方に対する計画書の中には、それは取り上げていなかったわけでございます。

○一五番（辻田 実君） 私は、この春に二つの事柄に遭遇したわけでございます。一つは、二中の校舎の竣工式のときに防衛庁の施設関係のかなり責任ある方がみえておりまして、私も二中の役員をやっているものですから、早目に行っているいろいろ話をしておる中에서도、その責任ある方が「今度は講堂ですね。講堂については体育館を兼ねたものと、体育館じゃだめですけども、やり方はありますけれども、検討しておる。あくまでも講堂ですよ。いろいろと皆さん方の陳情とか、要請を受けて意向は十分介しておりますから。」こういうようなことで、私が市議員かどうかかわかりませんが、そういうことでもって非常に好意的な説明をしてくださったものですから、私は非常に防衛庁の方も館山

二中の講堂については意を介していただいて、特にやっていたいっている。こういう感じを受けたわけです。

それから間もなく、直後私は県の体育関係の審議会に出ましたときに、県の体育課の管理職にある方が「館山市の方から今年せっかく国民体育館の建設の申請について問い合わせがきてやっただけども、いままではあまり希望がなかったんだけど、今年はどうも希望が多くて館山の要望に応じきれないで困りました。来年になれば少しはワクが出てくると思いますから、来年は確約できないけれども、何とか応じられるのではないかと。非常に申しわけありませんけれども、御勘弁願います。」私が話したのではないけれども、向こうからそういうことを言ってる。どっちをやってるんですか。それは。

○庶務施設課長（汐崎政光君） 二中の講堂の防音改築といったことはですね、教育委員会としては計画として持っておらなかったわけでございますが、国民体育館の建築につきましては、昨年度来学校との間に現在の講堂の利用面を考えた場合に、大体卓球とか、バトミントン、体操こういったものの利用が主体であり、その他講堂としての機能を必要とする使用は生徒集会、学年集会そういったもので数が少ない。かつては屋外の競技でありましたバスケととか、バレーボールそういったものが最近屋内競技に転化したことから、学校側ではすでに講堂そのものはただいま申しましたような競技に使用しているため、どうしてもほかにその場を借りざるを得ない。そういったことから北条小の体育館、それから館山高校の体育館を使用している。だから、講堂よりもむしろ体育館の方を希望する。そういった意味の話もあったわけでご

ざいます。

そういったことから、現在の講堂はそのままにいたしまして、文部省補助による社会体育施設としての国民体育館を現在の施設にプラスした方がより有効ではないか。そういったふうな考え方に立ちまして、現在検討を進めている。そういったのが現況でございます。

○一五番（辻田 実君） 私は、学校建築なんていうのは百年の計を立てて行うものですから、そう簡単に途中でもって議会のわからないような中で変わるといふようなことがあったんではいかぬのではないかとというように思われるわけなんですよ。

現実的に、先ほど申したように二またかけたのは事実です。防衛庁の竣工式に來た責任ある人ですから、何とかやりますよ。できるだけ補助金つけるように努力しますと言ってるんですから、私が聞いたわけではないんです。社交辞令としても向こうにそういうことを与えておると、そのために教育委員会は関与してないかもわからないけれども、館山二中はPTAの会費の中から二十万近くの金を支出して防衛庁の運動をしているわけですよ。決算書に出ているんですから、杜教課長よく知ってると思いますけれども、PTAの決算書にあるわけですから、去年、おとしもあるわけです。今年も予算計上されておる。

私も過去の、その時点まではいまの講堂でいきますと、既製のもので単価がきまるので、狭いのもっと大きなものにしなければならぬ。これは困難だろうけれども何とかしようというのが、防衛庁の責任者も言ってるわけですから、そのときは一つお願いしますよということでも私も頼んだ。一方では県の方にいっ

てる。

どうも、私は結果的に見てまいりますと、学校の中の期成会ないしそういったものの中でもって、防音校舎が狭いなら市民体育館を、でっかいものをやった方がいいということとそれに切りかえようということ、少なくともこの数カ月間はそういうことで市に対して陳情するんだということ、いろんな会合を持ったり、そのための経費をつくったりやってるわけです。

どうも、私はそういうところでもって見ていますと、議会は抜きにして、そういった期成会とか、学校の一部の人々と教育委員会の話し合いの中でもって、場合によれば国民体育館にしようじゃないかということがくるくる変わっていつちゃう。校舎は防音校舎でやってきて、最後の完成の講堂ですよ。そういう形の中でもって学校とか、公共施設が変わるといふような要素が見受けられるんですよ。そのことはやはり政治に対する不信も出てくるだろうし、議会に対するところの教育委員会との関係が十分とは言いきれない面があるのではないかとというように思われるわけです。

教育委員会は期成会云々、どうこうといっても、そういうような状況が現実にある中においては期成会やめられませんか。変わるんですから。いまの教育委員会は変わるといふとおかしいかもしれませんが、防音校舎で建てるということで去年までやってきた。それが国民体育館ということは議会等は全然報告も受けてない。それがもう県に陳情に行ってるというんですよ。県に行ったら国民体育館の補助金云々という形でもって、何とかありませんか、書類は出てないにしても、何とかワクがありませんかということ

で行つてゐることは事実ですから、その時点だったら重大な変更でございすから、文教委員会なり、議会に對して、こういうような形でやつていきたいというぐらゐの提案があつてしかるべきじゃないか。そういうものがない。

並行的にそれが行われてゐるというふうなことに對しては、私は行政としてはみつともないし、二またかけて、二足のわらじ云々といふことわざがありますけれども、それに類するやうなものではないか。そういうやうな中でもつて正常の、正しい教育といふものは望めないんじゃないか。もう少しそういう点からきちんとして、えりをただしていかなければならないという面がうかがわれるわけでございすけれども、その点について明快なる御答弁をいただきたいと思ひます。

○庶務施設課長（汐崎政光君） 二中の講堂を防音で改築するため防衛庁の方への陳情こつたものは一切市の方でやつておりません。現在、市で防音改築をまず手がけつたつあるのが学校の方でございす。校舎もまだ六校ばかり防音改築すべく計画してゐるわけでございす。ですから、順序としまして、二中の講堂を防音改築することの陳情をいままでの段階で出すといふことは、そういう順序からしましても問題があるわけでございす。

●として、現在文部省が示しております中学校の設備基準の中には講堂といったものはないわけでございす。体育館でございす。そういうこと。それから現在の二中で現実使用してあります利用面、それを検討いたしまして、体育館をつくる方が講堂よりもより現実に適用したものではないか。そのように考えてきつてゐるわけでございす。

○一五番（辻田 実君） これ以上、長くなりますけれども、少なくとも学校をつくるのに、校舎をつくるのに三年計画でもつて着工したら、その次におんぼろな講堂があるわけですから、あのものがそう使える状況ではないわけですよ。館山小学校にしても、二中にしても当然その時点でもつて防音でやるのか、国民体育館でやるのかという方針を立てて、五年以内なり、七年以内でもつて行ふということがなくて、校舎ができ上つた時点でもつて防衛庁にしましうか。さらにそれは入つてないんだから国民体育館で文部省にしましうか。こういうやうなすきを与えるというんですか、そういうやうなものが計画性がびしつと出ないやうな中においては教育の将来的な見通しがあり得ないし、そういうことが期成会みたいなのを生む。

確かに、教育委員会はそういうことをしてないといふことですけれども、實際に私ども、同僚議員も指摘してゐますように、防衛庁に陳情に行つてゐるじゃないですか。見て見ないふりとしか言えないわけですよ。もう少しああいふことが行われるのは市の行政にかかわる重大な問題ですから、館山市のどつかの期成会が防衛庁に行つたら、そういうことをやつては困ると。市の行政の介入じゃないか。今後の館山の行政に對して大変なことだと告発しなさいよ。ないじゃないですか。

それでもつて、話が防衛施設庁あたりが館山へやりますよといふことを言つて、それは知らぬ顔をしてゐると。そのときには、ちゃんと館山市の教育委員長も私もあのととき同席してありましたよ。知らないといふことはないですよ。そういう陳情というのが公然と行われてゐるのを暗黙の了解をしてゐるわけで、そのこと

は館山市の行政固有の問題ですから、それを他の期成会とかそういうものが防衛庁また文部省あたりに行くということ自身は重大な問題ですよ。行政にとっては。この点について今後はけじめをつけていただきたいと思います。

最後に、観光協会の問題が残っておりますので、この点について一点だけお伺いをいたしたいと思います。

時間がございませんで、はしりますけれども、市長は非常に私どもというか、私が聞く答弁の面からですと、いい面は表裏一体だとか、観光協会と共同して任務を分担していかなければならぬということをおっしゃるけれども、しかしながら、観光協会が今日のような状態に至ったときに、その責任の分野はあくまでも市と観光協会は別のものだ。自主観光云々、先ほどの同僚議員の答弁に対して、今回の問題については組織、人事問題が中心であってこれの解決をしなければならぬ。表裏一体となつて行政を進めていくということは、この三月の施政方針の中に書いてあるわけなんです。強調されたわけです。

となつてくれば、組織、人事の問題であれば、市も表裏一体のはずです。どっちが裏か表かわかりませんけれども、そこらへんについてもうちよつと市がいいときはいい。悪いときこそ市がこうした民間団体、自主団体に対してどうしりぬぐいをしていくか、どう責任を果していくかということが重要であつて、そういう面についてはどうも逃げ腰であるような感じがいたしてならないわけでございますけれども、そうしたことが今回、市長に観光協会長をやらせればいいじゃないか。なすりつけ的なことによつてこの問題を市へいっちゃったから、これで帳消しにしちやえというう

うな風潮がかなりあるのではないかと、いう点が心配だとか、観光協会に加入しておる幾つかの人から私どもの耳に入ってくる。そのことはすべて正しいことではないかもしれませんが、何かそういうようなものがある。そうしてその点を一年なり、二年なりある程度冷却期間をおいてまた元のもくあみにして戻していくといううな、そこには観光体質の根本的解決は無理ではないかといううな疑念もあるわけでございますして、この際はやはり根本的に出すみは出す。そうして本当にとことんまで突きつめて、施政方針に書いてあるわけですから、市も観光協会も一体となつてやはりやるべきじゃないか。観光協会の問題であつて、観光協会の人事が悪い、組織が悪いからああいう問題が起きたんだ。こういう傍観的な私は市長の姿勢というのは、観光協会の解決にはならぬんじゃないかというふうに思うわけでございまして、こういう中において、市長も多少観光協会と一緒にやることがよくあつて、館山市の重点施策の柱であるところの観光を立て直すためには、やはり市長なり、市の職員が多少どころをかぶるぐらいのこととはがまんしてやつて、そうして市民の幸せのためにやらなければならぬじゃないかというふうに思いますけれども、そういう意見込みと姿勢というものがむしろ見られないような感じがするわけでございますけれども、そういう点については、一体という言葉はそういう中にも立ち入る意向はないのか。また、そういう関係じゃないのか。どうなのか。そこらへんを少し明確にしていただきたいというふうに思います。

（市長（半澤良一君） 大変ただいまの辻田議員の発言、不本意で

でございます。

私は、観光協会に關して無関心であつたことは一度もございませんし、そういう発言をしたことは一度もございません。私はこのたび観光協会があのような問題起こりまして、私にげたをあずけるというところでございましたので、誠心誠意これを解決することをきょうの通告質問何人かの方にはっきりお答えしているわけでございます。

○一五番(辻田 実君) 不本意云々と言われますけれども、それはこっちが質問していることなんですよ。

先ほど、市長は、今回の観光協会の問題は組織、人事の問題だということになれば、一緒にやっておれば自身も一体じゃございませんか。そこらへんについてああいう問題、四月一日自主的な観光運営ができるから移管しますと。私との論議の中で若干時間を費やして、かつて市から民間に移管し、そうして民営から今度は市に移管するのはおかしいじゃないか。逆行ではないかということを聞いたら、むしろ自主的観光を伸ばすという見地からそれが適切であると。それだけに観光協会も充実し、発展したからやるんだということを言われている。それが四月一日移管できてないじゃないですか。三月の議会の論議の中で、そしていまの答弁の中において組織、人事の問題が今回の問題を来した重大な問題であるから、この点を改革していかなければならない。人事、組織の問題だったら、そこまで市長がおっしゃられる面があったら、もう少し議会に対してもこういうような問題を起こして非常に申しわけなかった。こういう一つの表明なり、何かの陳述があつてしかるべきではないか。むしろこちらの方が非常に不本意で

あり、遺憾な面があるわけでございますして、そういう点について私は議員の一人として怒りをもって発言するわけです。四月一日から実施してないんですから、それを約束したんですから、これはどうされるんですか。

○市長(半澤良一君) 観光協会も市もそれぞれ独立の団体でありまして、私が観光協会の人事にとにかく言う筋合いはございません。ただ、仕事の面お互いが協力し合つて表裏一体となつてやつていくということを御説明申し上げたわけでございます。

観光協会の人事問題が起こつたことは、それは私の責任ではございません。

○一五番(辻田 実君) それでは、先ほどの答弁の中でもつて、今回の問題で大きな問題は組織と人事の問題にあつたという断定する根拠はどこにあるんですか。これこそ自主的な民主団体に対しての内部干渉になりませんか。もう少し言葉を慎重にやつていただきたいと思ひます。

○市長(半澤良一君) 観光協会の問題につきまして、特に最終的に私が観光協会の幹部の方が来られてげたをあずける。下世話で言えげたをあずける、まかせると言いましたので、その前にもいろいろ関心を持つておりましたので、外部的に關係者からいろいろ意見を聞きました。そして人事及び組織の問題だといふ感觸を持つたということでございます。

○一五番(辻田 実君) いろいろ声を大にしてもこの問題解決できませんことでございますので、お互い一つ反省をしながら、観光館山というのは館山の立っていく大きな柱でございますので一つ謙虚にこの再建にお互いに努力したいと思ひますので、一つ

よろしくお願いをいたしたいと思います。

以上をもちまして、時間もございませんので終了します。

(議長(吉田勇治郎君) 以上で、一五番議員君の質問を終わります。
以上で、通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後四時五十五分散会

(議長(吉田勇治郎君) 本日の会議はこれにて散会といたします。
次会は、明六月十六日午前十時開会といたします。その議事は
各議案の内容審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問

